SONY

3-856-204-01 (1)

ビデオカメラレコーダー Hi8

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ**、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

詳しい目次は7ページにあります。

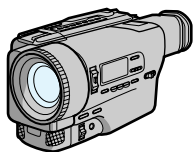
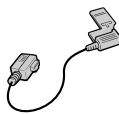
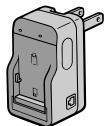
video Hi8
Handycam

CCD-TR3300

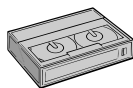
とにかく撮って見る

必要なもの

本体

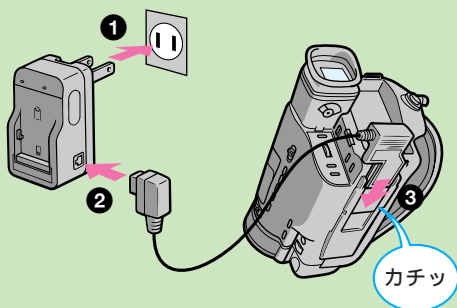
アクセサリー（別売り）

ACパワーアダプター

8ミリビデオカセット（別売り）

Hi8マークのついたHi8（ハイエイト）テープをおすすめします。

1 電源をつなぐ。

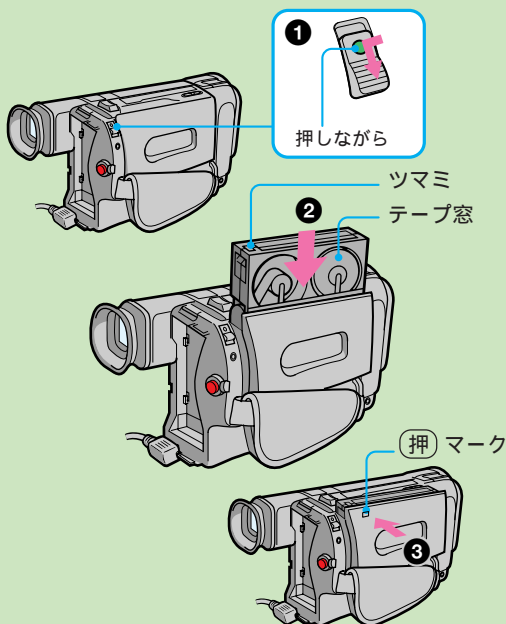
1　**ACパワーアダプターのプラグを起こし、コンセントにつなぐ。**

2　**接続コードをACパワーアダプターにつなぐ。**

3　**接続プレートを本体底面のハンディカムステーション端子にカチッと音がするまで差し込む。**

2 カセットを入れる。

1　**カセット取出しスイッチの青いボタンを押しながら矢印の方向へずらす。**
カセット入れが自動的に上がって開く。

2　**カセットを入れる。**
テープ窓を外側に、ツマミを上にする。

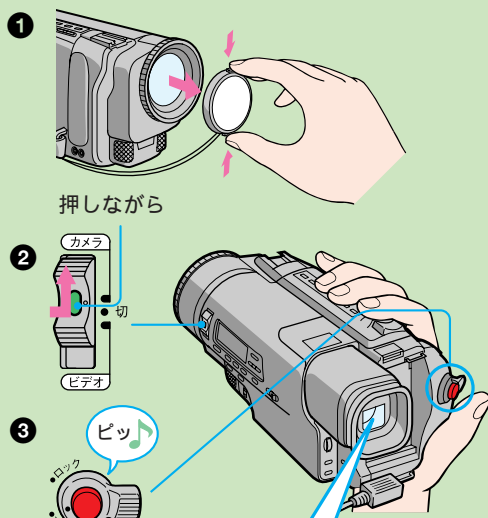
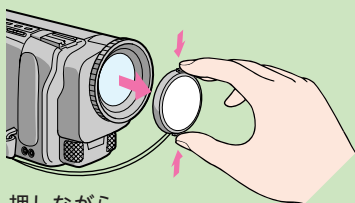
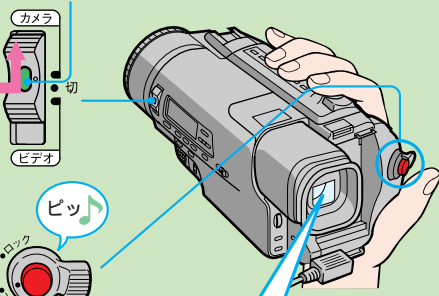
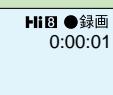
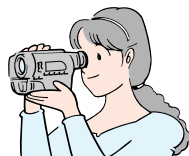
3　**押マークを押して、カセット入れを閉める。**
カセット入れは自動的に下がる。
無理に下げると故障の原因になります。

3 撮影する。

1　**レンズキャップをはずす。**

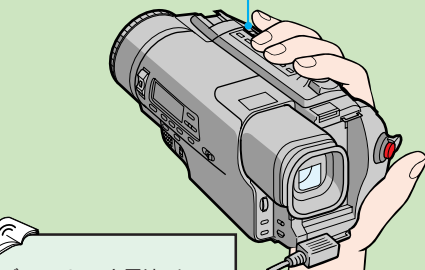
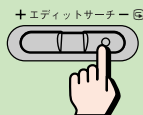
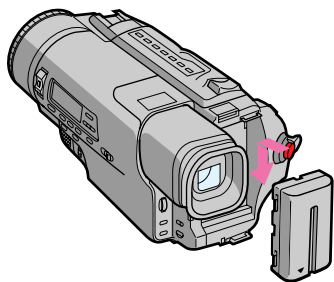
2　**電源スイッチの緑のボタンを押しながら「カメラ」にする。**

3　**スタンバイスイッチを「スタンバイ」にする。**
ファインダーに顔を近づけると（約1cm）ファインダーの電源が自動的に入り、画像が見える。遠ざけると、ファインダーの画像が消える。

4　**赤いボタンを押すと、撮影が始まる。**　ピッ♪

5　**もう一度赤いボタンを押すと、撮影が止まる。**　ピッピッ♪

4 撮影できたかちょっと確認する。

エディットサーチ⊖ボタンをポンと1回押す。
最後に撮影した場面を数秒間ファインダーで見られる。

屋外などで撮影するときは充電したバッテリー（充電池）を使います。（8、9ページ）

● バッテリー（充電池）を充電する　→ 8
● 撮影内容を確認する　→14
● テレビで見る　→16

うまく撮る姿勢

見やすい画像にするコツは、ハンディカムを動かしすぎないことと、ふらつかないような安定した姿勢で撮影することです。

アイカップを目にしっかりあてる。

グリップベルトをしっかりしめる。

マイクに手が触れないようにする。

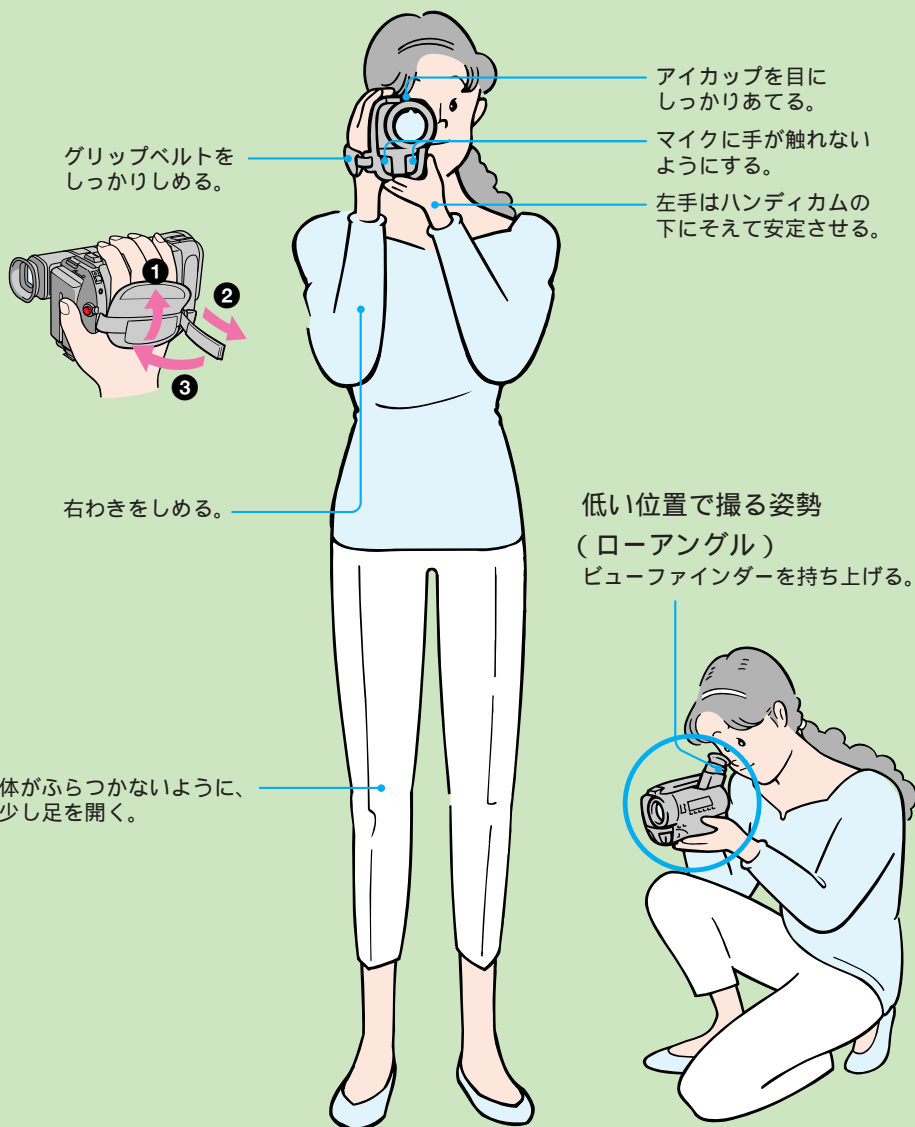
左手はハンディカムの下にそえて安定させる。

❶
❷
❸

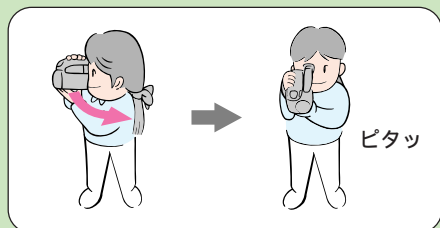
右わきをしめる。

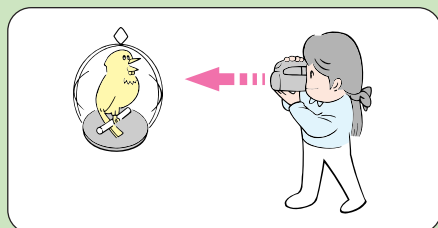
低い位置で撮る姿勢（ローアングル）

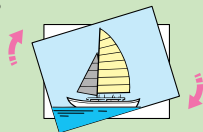
ビューファインダーを持ち上げる。

体がふらつかないように、少し足を開く。

撮影の基本

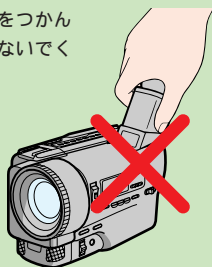
ハンディカムをふり回さない。

写真のつもりで固定して撮ります。左右に動かすとき(パンニング)は、つま先を撮り終わりの方に向け、ゆっくり動かします。撮り始めと終わりは、しっかり止めます。

ズームは多用せず、広角で撮る。

広角にすると、ブレの少ない画像になります。ピントも合いやすくなります。被写体を大きく撮りたいときは、近づいて撮影すると音もよく入ります。

安定した見やすい画面にするコツ

- 壁によりかかるなど安定した姿勢をとる。
- 水平、垂直の線をファインダーの枠に合わせる。
- 三脚を使う。ネジの長さが6.5mm未満のものをお使いください。
  (三脚を使うときは手振れ補正を解除してください。43ページ)

きれいな映像にするために

太陽を背に、被写体の正面に光があたるようにして、逆光を避けましょう。暗いところではライトを使いましょう。

ビューファインダーをつかんで、本機を持ち上げないでください。

ファインダーを太陽に向けたままにしないでください。
故障の原因になります。ビューファインダー内部を傷めてしまいます。窓際や屋外に置くときはご注意ください。

本書で使われているマークについて

：正しくお使いいただくためのご注意です。
：知っていると便利な操作や解説です。

必ずお読みください

別売りのアクセサリーキットについて
本機をお使いになるには、別売りのアクセサリーキットが必要です。お持ちでない場合は、お買い求めください。詳しい内容については、アクセサリーキットの取扱説明書をご覧ください。

ためし撮り
必ず事前にためし撮りをし、正常に録画・録音されていることを確認してください。

録画内容の補償はできません。
万一、ビデオカメラレコーダーやテープなどの不具合により録画や再生されなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。

著作権について
あなたがビデオで録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

本書内の写真について
ファインダー内の映像を説明するのに、スチルカメラによる写真を使っています。実際に見えるものとは異なります。

目次

準備1 バッテリーを充電する

バッテリーは充電して使います。ACパワーアダプターAC-V615を例に説明します。

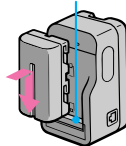
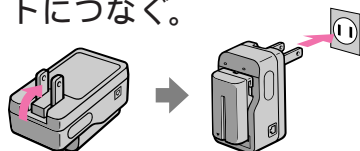
充電時間について

	満充電時間（実用充電時間）*
NP-F530	約170分（約110分）
NP-F730	約250分（約190分）
NP-510	約160分（約100分）
NP-710	約230分（約170分）

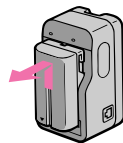
* 使い切ったバッテリーのAC-V615での充電時間。

別売りのACパワーアダプターなどの充電器が必要です。ACパワーアダプターの取扱説明書もあわせてご覧ください。

1 押しながらずらす。

端子シャッターに合わせる。

2 ACパワーアダプターのプラグを起こし、コンセントにつなぐ。

充電が始まると、充電ランプ（オレンジ色）が点灯する。充電されると消える（**実用充電**）。
続けて約1時間充電すると、さらに長く使えます（**満充電**）。

充電器から取りはずすとき

ずらして、はずす。

本体にバッテリーを取り付けたままでも充電できます。
詳しくは61ページをご覧ください。

本機は InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリー対応機器です。
InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーとは、インフォリチウムバッテリーに対応した機器との間で、バッテリーの使用状況に関するデータ通信をする機能をもった新しいタイプのリチウムイオンバッテリーです。本機はインフォリチウムバッテリーNP-F530、NP-F730で使うことができます。
InfoLITHIUM（インフォリチウム）はソニー株式会社の商標です。

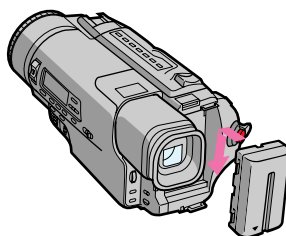
準備2 バッテリーを取り付ける

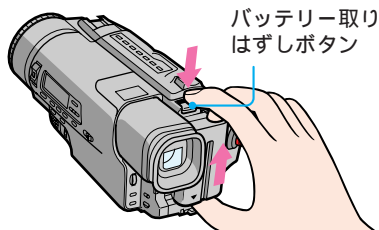
屋外の撮影などでは、充電したバッテリーを電源に使います。

使用時間について

	連続撮影時間*	実撮影時間**
NP-F530	約105分（約95分）	約65分（約55分）
NP-F730	約240分（約215分）	約145分（約130分）
NP-510	約100分（約90分）	約60分（約55分）
NP-710	約220分（約200分）	約130分（約120分）

満充電してから使用したときの時間、( )内は実用充電してからの時間。低温では使用時間が短くなります。
* 25度で連続撮影したときの時間の目安。
低温では使用時間が短くなります。
** 録画、スタンバイ、電源入／切、ズームなどを繰り返したときの撮影時間の目安。

押しながら下へずらす。

本体から取りはずすとき

バッテリー取りはずしボタンを押しながら、バッテリーを上へずらす。

充電確認マークが付いています。
本体から取りはずすと「無印」の状態になっています。充電済みなら「■」側にすると、見分けがつき便利です。

残量時間を表示します。
NP-F530、NP-F730をお使いになると、あと何分連続撮影で使えるか（残量時間）をカメラ撮影時にビューファインダーに表示します。残量時間は、使用状況や環境によって正しく表示されない場合があります。また、バッテリーが寿命のときメッセージが出ます。

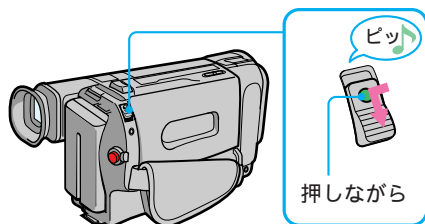
準備3 カセットを入れる

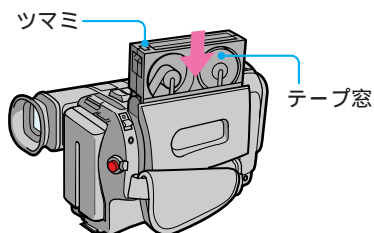
Hi8（ハイエイト）方式で記録するときは、Hi8マークのついたHi8テープを使います。

1 カセット取出しスイッチの青いボタンを押しながら矢印の方向へずらす。

カセット入れが自動的に上がって開く。

2 カセットを入れる。

テープ窓を外側に、ツマミを上側にして入れる。

3 押マークを押してカセット入れを閉める。

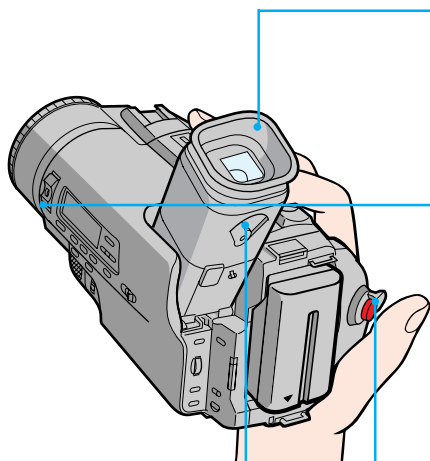
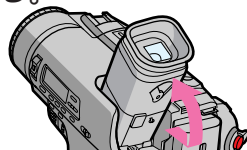
カセット入れが自動的に下がる。

取り出すとき

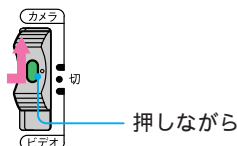
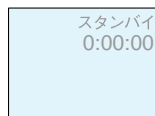
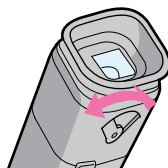
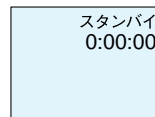
「カセットを入れる」と同じように行い、手順2でカセットを取り出す。

- **カセット入れを無理に下げないでください。**
  故障の原因になります。
- **カセット入れに指をはさまないようにご注意ください。**
  はさまれたときは、約2秒後に自動的にカセット入れが開きます。

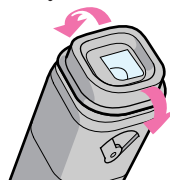
準備4 ファインダーを調節する

自分の視力に合わせて、ファインダー内の画像がはっきり見えるように調節します。（視度調節）

ファインダーの画像がはっきり見えないときや、はじめて撮影するとき、撮影する人が変わったときなど。

1 持ち上げる。

2 「カメラ」にする。

緑のボタンを押しながらずらす。

3 「スタンバイ」にする。

4 動かす。

ファインダーの文字がはっきり見えるようにする。

- **バッテリーの消耗を防ぐために、ファインダーから顔を離すと、自動的にファインダーの画像が消えます。**
  このとき、本体の電源は切れないので、録画や再生などは行われています。
  ファインダーの画像を常につけておくこともできます（63ページ）。

- **太陽光や白熱灯の影響でファインダーの画像が消えない場合があります。**
- **採光窓により、直射日光下でファインダーの画像がより明るく見えます。**
  このとき、ファインダー内の色が変化することがあります。

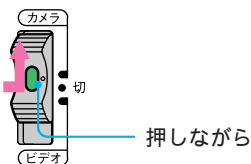
- **眼鏡をかけている方や画面の四隅が見えない場合**
  アイカップを折り返してお使いください。

撮影する

ピント合わせも自動で、簡単に撮影が楽しめます。

バッテリーなどの電源を付け、カセットを入れておきます。
スタート／ストップモードスイッチが「 」、オートロック／ホールドスイッチが「オートロック」になっているか確認します。

ズームレバー

オートロック／ホールドスイッチ

スタート／ストップモードスイッチ

1 はずす

レンズキャップをグリップベルトにつける。

2 「カメラ」にする。

緑のボタンを押しながらずらす。

カメラ

切

押しながら

ビデオ

3 「スタンバイ」にする。

撮影スタンバイ

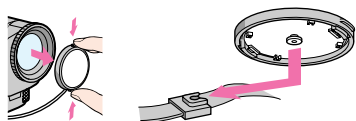
Hi8 スタンバイ
0:00:00

4 押す。

ピッ

ロック

スタンバイ

撮 影 中

撮影中に点灯する。

テープの最初から撮影するときは
15秒ほど撮影してから、本番の撮影をします。他の再生機で再生する場合に始めが欠けるのを防ぎます。

カラービューファインダーは液晶画面を使用しています。
液晶画面は非常に精密度の高い技術で作られていますが、黒い点が現われたり、赤や青、緑の点が消えないことがあります。故障ではありません。（有効画素99.99%以上）これらの点は、テープに記録されません。

本体前面の録画ランプは撮影中に点灯させないでおくこともできます（65ページ）。

撮影中の表示

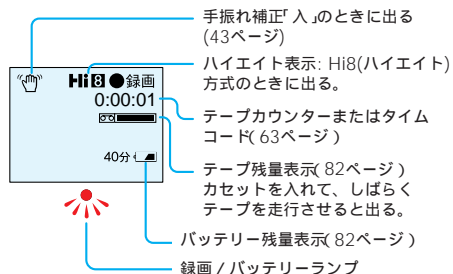
これらの表示はテープに記録されません。

撮影を一時止める

押す。

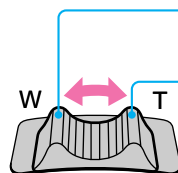
再び撮影するときは、もう1度押す。

撮影を止める

「ロック」にする。

ズームする

ズームレバーを動かす。

被写体が小さくなる
(広角: Wide(ワイド))。

被写体が大きくなる
(望遠: Telephoto(テレフォト))。

軽く動かすとゆっくりズームし、さらに動かすと速くズームする。
使いすぎると見づらい作品になります。

デジタルズームを使用する

21倍を超えるズームはデジタルズームになります。

デジタルズーム表示
(これよりT側がデジタルズームになります。)

デジタルズームを使用しないとき
撮影スタンバイ中にメニューで「デジタルズーム」を「切」にする。(65ページ)

撮影が終わったら

1 **カセットを取り出す。**
2 **電源スイッチを「切」にする。**
3 **バッテリーをはずす。**
4 **レンズキャップを取り付ける。**

21倍ズームを超えると
デジタル処理をするためT側にするほど画質が低下します。

きれいなつなぎ撮りのために
カセットを取り出さない限り、電源を切っても、場面がきれいにつながります。ただし、バッテリーの交換はスタンバイスイッチを「ロック」にしてから行ってください。

近くのものにピントがうまく合わない場合、ズームレバーをW側に動かして広角にします。
ピントが合うのに必要な被写体との距離は、W側では約1cm以上、T側では約80cm以上です。

テープカウンターを「0:00:00」にするときはカウンターリセットボタンを押します。
タイムコードを表示しているときは、カウンターリセットボタンは働きません。

撮影内容を確認する

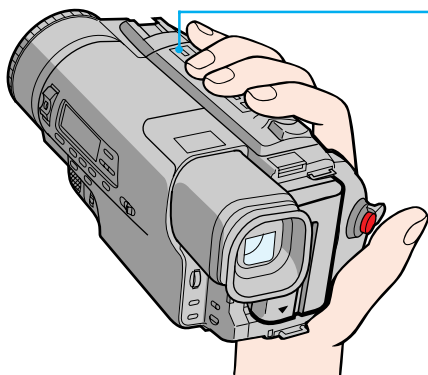
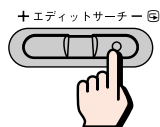
撮影した内容をファインダーで確認できます。撮り直しの開始点を決めることもできます。

最後に撮った場面が気になるとき。もう一度途中から撮り直すときなど。

最後の場面を確認する —レックレビュー

撮影スタンバイ中に、

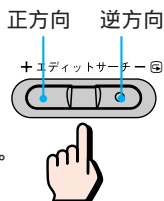
をポンと1回押す。

最後に撮影した場面が数秒間出て、再び撮影スタンバイに戻る。ヘッドホンで音も確認できます。

正方向または逆方向に再生する —エディットサーチ

撮影スタンバイ中に、

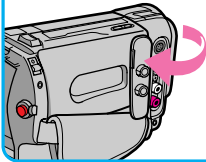
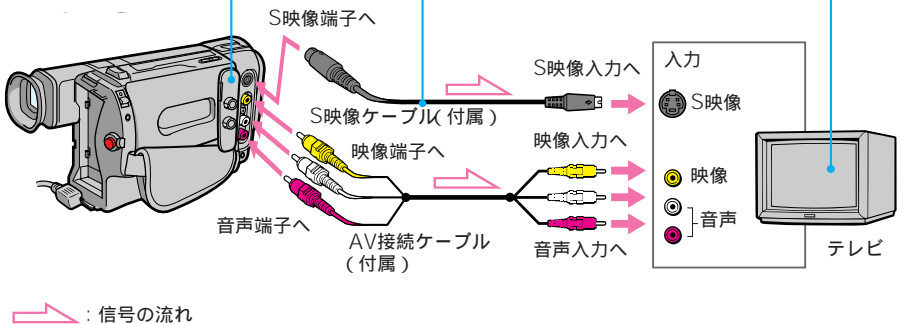
＋または－側を

押し続ける。

指を離したところが、次の撮影開始点になる。音は出ません。

長い内容を確認したいとき

電源スイッチを「ビデオ」にして、ファインダーで再生画像が見られます。ヘッドホン(別売り)をつないで音を聞くこともできます。操作は16ページ「テレビで見る」と同じです。

テレビにつなぐ

撮影したテープなどをテレビで見るには、本機を付属のAV接続ケーブルでテレビに直接つなぎます。電源は別売りのACパワーアダプターを使って、コンセントからとることをおすすめします(61ページ)。別売りのハンディカムステーションを使うこともできます。接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

映像／音声入力端子のないテレビにつなぐとき
別売りのRFUアダプターをお使いください。

音声入力端子がひとつ(モノラル)のテレビにつなぐとき
AV接続ケーブル(付属)の黄色いプラグを映像入力へ、白いプラグを音声入力へつなぎます。(赤いプラグはどちらにもつながないでください。)音声はモノラルです。

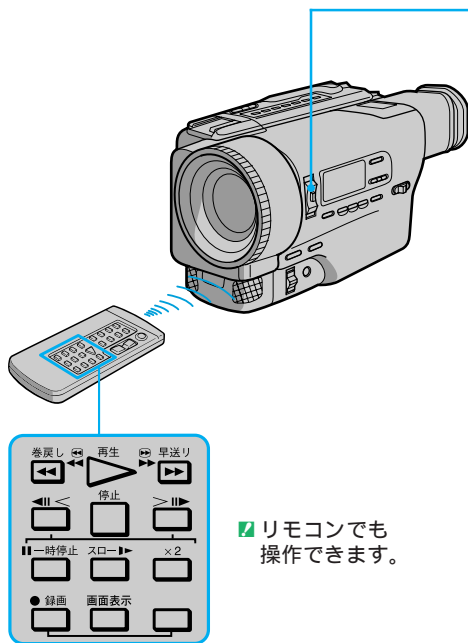
すでにテレビにビデオがつながっているとき
本機をビデオの外部入力端子につなぎます。ビデオの入力切り換えスイッチは「外部入力(ライン)」にしてください。

テレビで見る

撮影したテープなどをテレビで見ます。ファインダーにも再生画像が映ります。

本機をテレビにつなぎ、本機からの映像がテレビに映るようにしておきます（15ページ）。

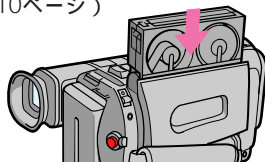
巻戻し　再生　早送り
停止
一時停止　スロー　×2
録画　画面表示

リモコンでも操作できます。

1 「ビデオ」にする。

緑のボタンを押しながらずらす。

テープ走行ボタンが点灯する。

2 カセットを入れる。

（10ページ）

3 押す。

巻戻しが始まる。

4 押す。

画像が映る。

外国製のビデオソフトについて

カラーテレビ方式が異なるため、本機で再生できないものがあります。

テレビ画面にカウンターなどの表示を出す（画面表示機能）

リモコンの画面表示ボタンを押します。ファインダー内に出る文字がテレビ画面に出ます。消すときは、もう一度押します。電源スイッチを「カメラ」にしたときも出せます。

音声多重放送テープを再生するとき

69ページをご覧ください。

いろいろな再生

こんなとき	押すボタン
止める	□停止
静止画を見る	再生中に❚❚一時停止 ふつうの再生に戻すには、❚❚一時停止または▷再生
巻き戻す	停止中に、◀◀巻戻し
早送りする	停止中に、▶▶早送り
逆方向に再生する (リモコンのみ)	再生中にリモコンの＜ ふつうの再生に戻すには、▷再生
ひとコマずつ画像を見る －コマ送り再生(リモコンのみ)	一時停止中にリモコンの❙❙▶(コマ送り)または ◀❙❙(コマ送り) ふつうの再生に戻すには、▷再生
1／5の早さで画像を見る －スロー再生(リモコンのみ)	再生中にリモコンのスロー❚▶ 逆方向にスロー再生するには、リモコンの＜を押してからスロー❚▶ ふつうの再生に戻すには、▷再生
2倍速で画像を見る －倍速再生(リモコンのみ)	再生中にリモコンの×2 逆方向に倍速再生するには、リモコンの＜を押してから×2 ふつうの再生に戻すには、▷再生
画像を見ながら見たい場面を探す －ピクチャーサーチ	再生中に▶▶早送りまたは◀◀巻戻しを押し続ける。 離すと、ふつうの再生に戻る。
早送り・巻き戻し中に画像を見る －高速アクセス	早送りまたは巻き戻し中に▶▶早送りまたは◀◀巻戻しを押し続ける。 離すと、早送りまたは巻き戻しに戻る。 ふつうの再生に戻すには、▷再生

逆方向再生、コマ送り再生、スロー再生、倍速再生、ピクチャーサーチ、高速アクセス中は、音声は出ません。

変速再生について
- 変速再生中、音声は出ません。
- RCタイムコード、データコードを表示中に変速再生すると画面にノイズが入りますが、異常ではありません。

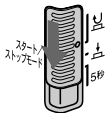
一時停止(静止画)について
5分以上続くと自動的に停止状態になります。再生するときは、もう1度▷再生ボタンを押します。

スロー再生について
1分以上続くと自動的にふつうの再生に戻ります。
画面が上下に揺れることがありますが、異常ではありません。

逆方向再生について
RCタイムコード、データコードを表示中に逆方向再生すると画面中央にノイズが入りますが、異常ではありません。

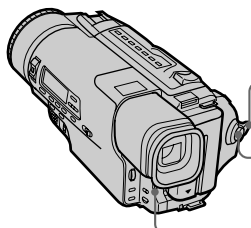
撮影モードを選ぶ

本機では通常の撮影モード以外に、2種類の撮影モードがあります。

同じ場面が長すぎる退屈なビデオになるのを防ぎたいときなど。

スタート／ストップモードスイッチの位置により、3つの撮影モードが選べます。

: スタート／ストップボタンを押すと撮影が始まり、再び押すと止まります（お買い上げ時の設定）。

: スタート／ストップボタンを押している間だけ撮影します。ボタンから指を離すと撮影が止まります。

5秒: スタート／ストップボタンを押すと5秒間撮影して止まります。

「5秒」を選んだときの表示

1秒たつと、●が1つずつ消える。

1 **スタート／ストップモードスイッチを希望の位置にする。**

2 **スタンバイスイッチを「スタンバイ」にする。**

3 **スタート／ストップボタンを押す。**

- 「5秒」を選んだときは、約5秒後に自動的に撮影が止まる。
- 「 」を選んだときは、ボタンから指を離すと撮影が止まる。

「5秒」を選んだ時の撮影時間を延長するには
●がすべて消えてしまわないうちにもう一度スタート／ストップボタンを押します。押したときから、また約5秒間撮影されます。

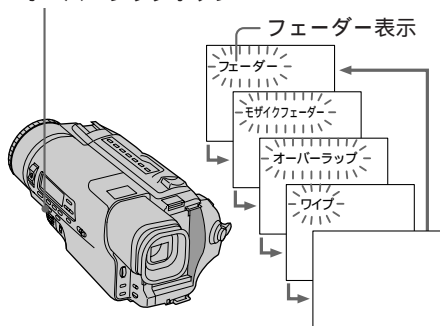
「5秒」「 」を選ぶとフェーダーボタンは働きません。

場面転換を工夫する

フェードイン・フェードアウトする

白またはモザイクの画面から、徐々に画像と音を出したり（フェードイン）、消したり（フェードアウト）することができます。

大きな場面転換のきっかけにしたり、演出効果を出したいときなど。

物語の始めと終わり、あるいは1日の終わりと次の朝といった大きな場面の転換を図るときに使用すると効果的です。また、フェードアウトには余韻を残して終わる効果もあります。ただし、フェードを多用すると、現在の被写体の状況などがわかりづらくなり、見づらくなります。

1 ●フェードインは 撮影スタンバイ中 に、
●フェードアウトは 撮影中 に、
フェーダー／オーバーラップボタンを押して希望のフェーダー表示を出す。

2 **スタート／ストップボタンを押す。**
フェーダー表示が点滅から点灯に変わり、フェード終了後に消える 。

フェードイン・フェードアウトは行われるたびに自動的に解除されます。

フェードする前に解除するときは
フェーダーボタンを押して、ファインダー内のフェーダー表示を消します。

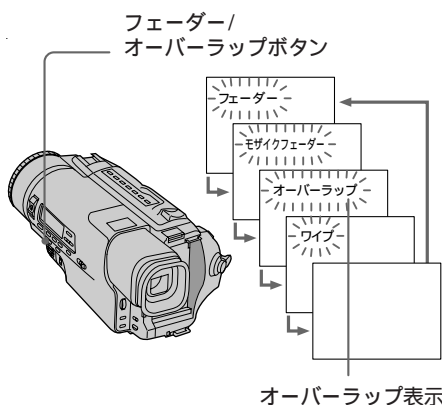
日付や時刻表示にはフェーダーは働きません。
不要の場合は日付、時刻表示を消してから行ってください。

2つの画像をオーバーラップする

テレビや映画のように、最後の場面を残しながら、徐々に次の場面に切り換えられます。

最後の場面の余韻を残しながら、つなぎ撮りをしたいときなど。

シーン1　シーン2

本機では、撮影を終えて撮影スタンバイにすると、自動的に最後の場面が記憶されます。オーバーラップを選んで次の場面（シーン2）の撮影を始めると、記憶していた前の場面(シーン1)から徐々にシーン2が浮かび上がってきます。
音声は、シーン2の撮影を始めたときからシーン2の場面の音声が徐々に入ります。

1 撮影スタンバイ中 に **フェーダー/オーバーラップボタンを繰り返し押してオーバーラップ表示を出す。**

2 **スタート／ストップボタンを押して、次の撮影を始める。**
オーバーラップ表示が点滅から点灯に変わり、オーバーラップ終了後に表示が消える。

オーバーラップ中には以下の操作ができません。また以下の操作中にはオーバーラップができません。
- デジタルエフェクト全部
- スローシャッター
- タイトル

以下の状態から撮影スタンバイにして「オーバーラップ」を出すと
本機が自動的に動作し、テープ上の画像を記憶します。記憶中はオーバーラップ表示が早い点滅になり、画面が消えます。
- スタンバイスイッチを「ロック」にしたとき
- 電源をはずしたとき
- カセットを入れたあと
- エディットサーチのあと
- フェードアウトのあと
- デジタルエフェクトのあと
- スローシャッターのあと
- タイトルのあと

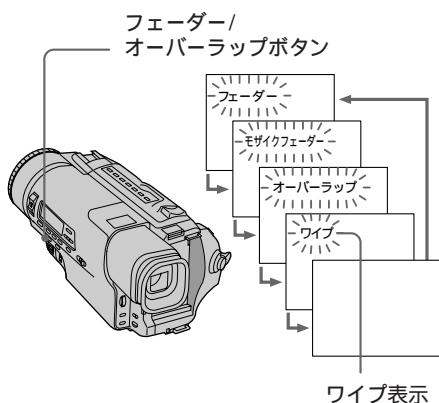
このとき、テープの状態によっては、きれいな画像がとりこめないことがあります。

画像をワイプする

最後の場面の静止画が２つに分かれて、中心から徐々に次の場面に切り換わります。

最後の場面の余韻を残しながら、つなぎ撮りをしたいときなど。

シーン１　　シーン2

本機では、撮影を終えて撮影スタンバイにすると、自動的に最後の場面が記憶されます。ワイプを選んで次の場面（シーン2）の撮影を始めると、記憶していた前の場面(シーン1)の中心から徐々にシーン2に切り換わります。
音声は、シーン2の撮影を始めたときからシーン2の場面の音声が入ります。

1 撮影スタンバイ中 に
フェーダー/オーバーラップボタンを繰り返し押して、ワイプ表示を出す。

2 **スタート／ストップボタンを押して、次の撮影を始める。**
ワイプ表示が点滅から点灯に変わり、ワイプ終了後に表示が消える。

ワイプ中には以下の操作ができません。また以下の操作中にはワイプができません。
- デジタルエフェクト全部
- スローシャッター
- タイトル

以下の状態から撮影スタンバイにして「オーバーラップ」を出すと
本機が自動的に動作し、テープ上の画像を記憶します。記憶中はワイプ表示が早い点滅になり、画面が消えます。
- スタンバイスイッチを「ロック」にしたとき
- 電源をはずしたとき
- カセットを入れたあと
- エディットサーチのあと
- フェードアウトのあと
- デジタルエフェクトのあと
- スローシャッターのあと
- タイトルのあと

このとき、テープの状態によっては、きれいな画像がとりこめないことがあります。

横長の画面にする ―ワイドTVモード

映画のように画面の上下に黒い帯を入れて横長の画面にしたり、ワイドテレビで画面いっぱいに映るように撮影できます。

シネマで撮影

ファインダー

ワイド シネマ

再生

テレビ

ワイドテレビ

テレビをズームモードに切り換える

フルで撮影

ファインダー

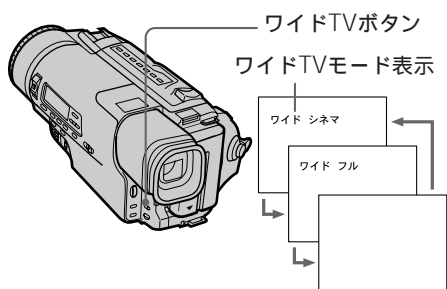
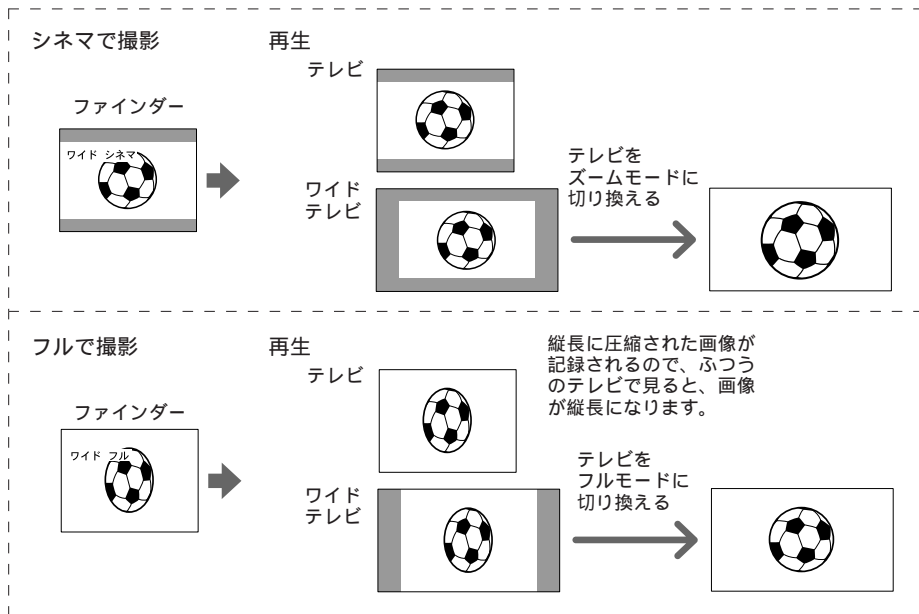
ワイド フル

再生

テレビ

縦長に圧縮された画像が記録されるので、ふつうのテレビで見ると、画像が縦長になります。

ワイドテレビ

テレビをフルモードに切り換える

撮影スタンバイ中 に

ワイドTVボタンを押して、希望のワイドTVモード表示を選ぶ。

ワイドTVモードを解除するとき

ワイドTVボタンを押して、ワイドTVモード表示を消す。

ワイドTVモードで撮影したテープをワイドテレビで見るときは

「ワイド シネマ」のときはズームモードに、「ワイド フル」のときはフルモードにテレビを切り換えてください。接続するテレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。

電源をはずして5分以上たつと、ワイドモードは解除されます。

日付・時刻表示は

「ワイド フル」で記録すると、ワイドテレビで見る場合は横長の字になります。

ビデオIDシステム(ID-1)方式対応のテレビに接続すると

ワイドTVモードで記録した画像が再生されると、自動的にモードが切り換わって画面いっぱいに映ります。

画像に特殊効果を加える―ピクチャーエフェクト

画像にデジタル処理をして、テレビや映画のような特殊効果を加えられます。

モザイク

タイルを組み合わせたように

ソラリ

明暗をはっきりさせたイラストのように

ネガアート

写真のネガフィルムのように

パステル

絵の具で塗ったように

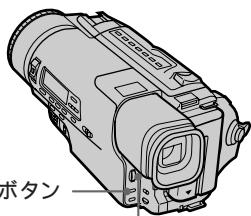
スリム

縦に引き伸ばしたように

ストレッチ

横に引き伸ばしたように

モノトーン
白黒に

セピア
古い写真のようなセピア色に

1 撮影スタンバイ中 または 撮影中 に**ピクチャーエフェクトボタンを押す。**
ピクチャーエフェクト表示が出る。

2 **選択ダイヤルを回して希望のピクチャーエフェクト表示を出す。**

ピクチャーエフェクトを解除するとき
ピクチャーエフェクトボタンを押してピクチャーエフェクト表示を反転させ、もう一度ボタンを押す。

- **ピクチャーエフェクト表示は次の順で変わります。**
  モザイク ⟷ ソラリ ⟷
  モノトーン ⟷ セピア ⟷
  ネガアート ⟷ パステル ⟷
  スリム ⟷ ストレッチ

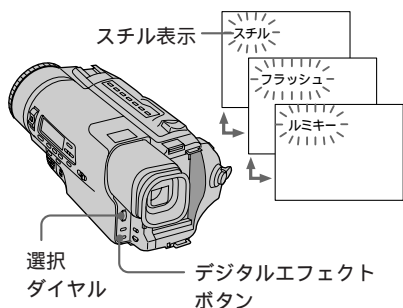
- **ピクチャーエフェクトは電源スイッチを「切」にすると自動的に解除されます。**

静止画を撮る—スチル

スチルカメラで撮影するように、静止画を撮影して記録し、撮影中の画像に重ねることができます。
音声はそのまま記録できます。

後から記念写真のように見たい画像を撮るときや、ある画像を重ねたまま別の画像を撮影したいときなど。

スチル撮影では、撮影を始めたときの画像が静止したまま記憶され撮影中の画像(動画)に重ねることができます。選択ダイヤルで、静止画と動画の割合を変更できます。音声の部分は、通常の撮影と同じように、撮影中の音声がそのまま記録されます。

1 撮影スタンバイ中 または 撮影中 に **デジタルエフェクトボタンを押し、選択ダイヤルを回してスチル表示を出す。**

2 **選択ダイヤルを押す。**
スチル表示が点灯し、バーが表示される。このとき静止画が記憶される。

3 **選択ダイヤルを回して、静止画と動画の割合を調節する。**
スチル表示のバーの数が多いほど静止画の割合が多くなる。

スチルを解除するとき
デジタルエフェクトボタンを押してスチル表示を反転させ、もう一度ボタンを押す。

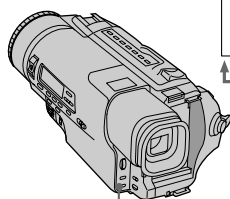
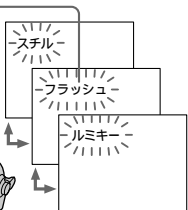
スチル中には以下の操作ができません。
- フェーダー
- モザイクフェーダー
- オーバーラップ
- ワイプ
- スローシャッター

電源スイッチを「切」にすると自動的に解除されます。

コマ送りの画像を撮る－フラッシュモーション

動いているものをコマ送りのように
静止画で連続して撮影できます。

フラッシュモーションを選ぶと、一定の間隔で静止画が記録されます。間隔は選択ダイヤルで選べます。音声は通常の撮影と同じように、撮影中の音声がそのまま記録されます。

1 撮影スタンバイ中 または 撮影中 に
デジタルエフェクトボタンを押し、選択ダイヤルを回してフラッシュモーション表示を出す。

2 **選択ダイヤルを押す。**
フラッシュモーション表示が点灯し、バーが表示される。

フラッシュ ▮▮▮▮

3 **選択ダイヤルを回して、フラッシュの間隔を決める。**
フラッシュモーション表示のバーの数が多いほどフラッシュの間隔が長くなる。

フラッシュモーションを解除するとき
デジタルエフェクトボタンを押してフラッシュモーション表示を反転させ、もう一度ボタンを押す。

フラッシュモーション中には以下の操作ができません。
- フェーダー
- モザイクフェーダー
- オーバーラップ
- ワイプ
- スローシャッター

電源スイッチを「切」にすると自動的に解除されます。

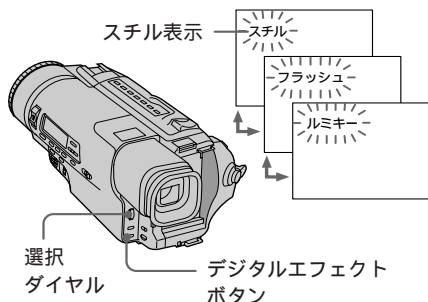
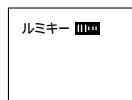
静止画に動画をはめ込む—ルミナンスキー—

静止画の中に動画をはめ込むことができます。
音声はそのまま記録できます。

合成映像を作りたいときなど。

静止画　　動画

ルミナンスキーを選ぶと、そのときの画面が静止画として記録されます。選択ダイヤルで調節すると、静止画の明るい部分に動画がはめ込まれていきます。たとえば、背景の明るい人物像などを静止画として取り込むと、その背景に好みの場面をはめ込むことができます。

1 撮影スタンバイ中 または 撮影中 に**デジタルエフェクトボタンを押し、選択ダイヤルを回してルミキー表示を出す。**

2 選択ダイヤルを押す。
ルミキー表示が点灯し、バーが表示される。このとき静止画が記憶される。

ルミキー

3 選択ダイヤルを回して、静止画と動画の割合を調節する。
静止画の明るい部分から動画がはめ込まれる。ルミキー表示のバーの数が多いほど静止画の割合が多くなる。

ルミキーを解除するとき
デジタルエフェクトボタンを押してルミキー表示を反転させ、もう一度ボタンを押す。

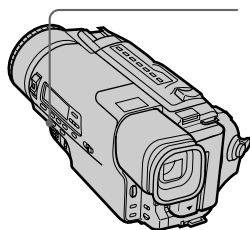
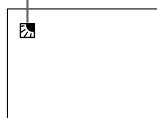
ルミナンスキー中には以下の操作ができません。
- フェーダー
- モザイクフェーダー
- オーバーラップ
- ワイプ
- スローシャッター

電源スイッチを「切」にすると自動的に解除されます。

逆光を補正する

逆光のときは背景が明るすぎて被写体が暗めになるので、明るさを補正して撮ります。

被写体の背後に光源があり、被写体が暗く映るときなど。

逆光で撮影するときや光量が多すぎて光が反射する場合に、被写体が黒っぽく映るのを防いで見やすい画面を作ります。画面の中に強い光を発するものがあるときも同じです。また、白い服を着た人物が白い壁の前にいるときにも顔が黒っぽく映るので、逆光補正して表情をはっきりとらえて撮影します。

撮影スタンバイ中 または 撮影中 に
逆光補正ボタンを押す。

逆光補正表示が出る。被写体の明るさが補正される。

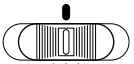
逆光補正を解除するとき

逆光補正ボタンをもう一度押して、逆光補正表示を消す。

次のボタンを押すと逆光補正は解除されます。
- アイリスボタン
- シャッタースピードボタン
- ゲインボタン

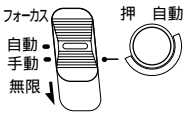
逆光補正のしくみ
本機は画面全体で明るさをいつも一定の量に保つ働きがあります。逆光で撮影するときにもこの一定の「量」を保とうとして、被写体が暗めになります。逆光補正ボタンを押すと、この「量」が多くなり被写体を明るめに自動調節します。

自動調節と手動調節について

フォーカス（ピント）、アイリス（レンズ絞り）、シャッタースピード、ゲイン、ホワイトバランス（色合い）を自動または手動で調節できます。また、プログラムAEを使って特定の状況に最適なように調節したり、AEシフト（39ページ）で画像全体の明るさをお好みで設定できます。

通常は**自動調節**にします。撮影の状況や被写体に合わせて、手動調節、プログラムAEに切り換えます。

自動調節	オートロック オートロック ・・・ ホールド	
プログラムAE	オートロック解除（まん中の位置） オートロック ・・・ ホールド	アイリス優先モード（プログラムAEボタンを押し、選択ダイヤルを回して **AE** A表示を出す。）
		シャッタースピード優先モード（プログラムAEボタンを押し、選択ダイヤルを回して **AE** S表示を出す。）
		夜景モード（プログラムAEボタンを押し、選択ダイヤルを回して ☽ 表示を出す。）
		表示なし（プログラムAEボタンを押してアイリス、シャッタースピード表示を消す。）
手動調節		マニュアル（プログラムAEボタンを押して、表示を消す。）

手動調節やプログラムAE調節した設定を保持する

オートロック／ホールドスイッチを一番右にして、「ホールド」にする。
プログラムAE、アイリス、シャッタースピード、ゲイン、ホワイトバランスの各ボタンと選択ダイヤルによるそれらの設定が働かなくなります。

アイリスやシャッタースピード、ゲイン、ホワイトバランスを手動調節すると、以下のようなときも保持されています。

- オートロック／ホールドスイッチを「オートロック」にして自動調節に戻したとき
- 電源スイッチを「切」にしたとき
- 電源をはずしてから5分以内 (ボタン型リチウム電池が入っている場合)

フォーカススイッチはオートロックスイッチに優先して働きます。
オートロック／ホールドスイッチがオートロックになっていてもフォーカススイッチは働きます。

	ゲイン	アイリス	シャッタースピード	ホワイトバランス	AEシフトメニュー	フォーカス
	自動的に調節される。	自動的に調節される。	1/60に固定される。	自動的に調節される。	効果がある。	オートロック／ホールドスイッチの位置は無関係。 フォーカススイッチの位置によっては、以下のようになる。 ・「自動」にすると、自動的に調整される。 ・「手動」にすると、手動で調整できる。 フォーカス押自動ボタンを押すと、押している間だけ自動で調節される。 ・「無限」にすると、フォーカス位置が無限遠になる。指を離すとピント合わせが手動に走る。 フォーカス 押 自動 自動 手動 無限
	自動的に調節される。	選択ダイヤルでアイリス値を切り換える。（アイリスボタンと調整ダイヤルで明るさを変えられる。）	自動的に調整される。	自動調整（表示なし）またはホワイトバランスボタンを押し、選択ダイヤルを回して切り換える。（40ページ） ワンプッシュホワイトバランス（ ） ・ 屋外（☀） ・ 屋内（ ）		
	自動的に調整される。	自動的に調整される。	選択ダイヤルでシャッタースピードを切り換える。			
	自動的に調整される。	自動的に調整される。	1/60に固定される。			
	自動的に調整される。	自動的に調整される。	1/60に固定される。			
	ゲインボタンと選択ダイヤルでゲインを変えられる。	アイリスボタンと選択ダイヤルで明るさを変えられる。	シャッタースピードボタンと選択ダイヤルでシャッタースピードを切り換えられる。		効果がある。＊	

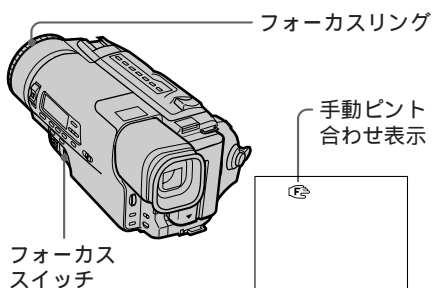
＊アイリスを手動で調整している間は、AEシフトは変更できません。

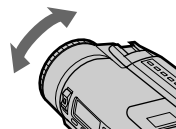
手動でピントを合わせる

自動ピント合わせには、充分な明るさと適度な明暗の差が必要です。撮影状況に応じて、手動でピントを合わせることもできます。

自動ではピントが合いにくいときや、意図的にピントの合う位置を変えたいときなど。

T側(望遠)いっぱいにしてからピント合わせをすると、ズームのときにもピントがずれません。被写体が水滴のついた窓ごしにあってピントが定まらないときや、三脚を使って静止した被写体を撮るのに

ピントを固定したいときにも、手動で合わせます。
手前の花から後方の人物へと、意図的にピントの合う位置を変えるピン送りなどの演出にも使います。

1 撮影スタンバイ中 または 撮影中 に**フォーカススイッチを「手動」にする。**
手動ピント合わせ表示Ⓕが出る。

2 **フォーカスリングを回し、ピントの合う位置を調節する。**

自動調節に戻すとき

フォーカススイッチを「自動」にする。

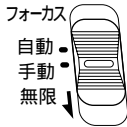
暗い室内で撮るときや明るい野外で動きの激しいものを撮るとき
手動ピント合わせをしたあと、なるべくW側(広角)で撮ります。

近づいて大きく撮るとき
ズームをW側(広角)いっぱいにしてピントを合わせます。

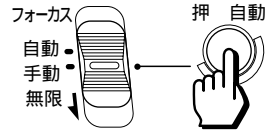
手動でピント合わせをするとき、Ⓕが次のようなマークに変わります。
▲: 無限遠にあるとき
●: それ以上近くにピント合わせをすることができないとき

自動ピント合わせのしくみ
自動ピント合わせは、横方向に走査する映像信号からピントを検出します。そのため、被写体が横じまだけのものや背景とのコントラストの低いものは、自動でピントが合いにくいことがあります。

ピントを無限遠にして撮影する

フォーカススイッチを「無限」に合わせると、ピントは無限遠になる。
指を離すとピント合わせが手動に戻ります。

遠くの被写体を撮りたいのに、近くの被写体にピントが合ってしまうときに使います。

一時的にオートフォーカスで撮影する

フォーカス押自動ボタンを押す。
押している間、オートフォーカスが働く。

手動ピント合わせで、ある被写体から別の被写体へピントを移すようなときに使うと、自然にピントが合うようななめらかな画像になります。
指を離すと手動ピント合わせに戻ります。

目的に合わせて撮る－プログラムAE

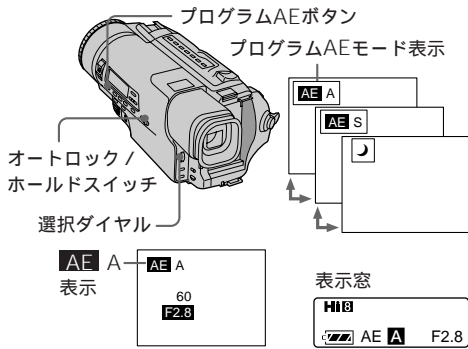
アイリスを優先して設定する－アイリス優先モード

アイリス値をF1.6からF19まで自由に設定できます。設定したアイリス値に合わせて、最適なシャッタースピードに自動調節されます。

被写界深度を自由に設定して撮影するとき。

アイリスを開く（F値を小さくする）と、ピントが合う範囲が狭く（被写界深度が浅く）なります。背景をぼかして人物を引き立てて撮れます。

アイリスを絞る（F値を大きくする）と、ピントが合う範囲が広く（被写界深度が深く）なります。人物と背景のどちらもはっきり撮れます。

1 撮影スタンバイ中 または 撮影中 に**オートロック／ホールドスイッチをまん中の位置にする。**

2 **プログラム AE ボタンを押し、選択ダイヤルを回してアイリス優先モードの AE A 表示を出す。**

3 **選択ダイヤルを押す。**
表示窓には A 表示とアイリス値が出る。

4 **選択ダイヤルを回して好みのアイリス値 (F値)を選ぶ。**
ダイヤルを回すと値が変わる。数値が小さくなるほどアイリスは開き、大きくなるほど絞られる。

自動調節に戻すとき
オートロック／ホールドスイッチを「オートロック」にする。
またはプログラムAEボタンを押してプログラムAEモード表示を反転させ、もう一度ボタンを押す。

アイリス値は次の15段階から選べます。
F1.6, F2, F2.4, F2.8, F3.4, F4, F4.8, F5.6, F6.8, F8, F9.6, F11, F14, F16, F19

シャッタースピードは1/60～1/2000の範囲で自動調節されます。

被写界深度とは
被写体にピントを合わせると、その被写体の前後の像はぼけを生じますが、実用上ピントが合って見える範囲のことを被写界深度といいます。

シャッタースピードを優先して設定する –シャッター優先モード

シャッタースピードを 1/60 から 1/10000 まで自由に設定できます。設定したシャッタースピードに合わせて最適なアイリス値に自動調節されます。

運動会、テニス、ゴルフ、スキーなど、動きのあるシーンを撮影するときなど。

撮影条件例	おすすめするシャッタースピード
• 晴天下でテニスやゴルフをしている人を撮る	1/725～1/10000（瞬間をはっきり撮るときは、1/1000～1/4000）
• 自動車や電車から外の風景を撮る • 薄曇りにジェットコースターなど撮る • 運動会やマラソンなどを撮る	1/125～1/500
• 屋内でスポーツをしている人を撮る • 雪山や真夏の晴れた海岸でND2フィルターの代わりにする（光量は半減します。） • 蛍光灯の下でちらつきのない画像を撮る（関東地方など50Hzの地域）	1/100
• 晴天下で撮る（小絞りぼけ）	1/90

撮影条件や明るさに応じて、上の表を参考にしてシャッタースピードを切り換えます。シャッタースピードを速くするほど動きの速いものが撮れますが、画像が暗くなることがあります。ファインダー内で明るさを確認してください。
本機では、1/100のシャッタースピードは100のように表示されます。

シャッタースピードは次の16段階から選べます。
1/60, 1/90, 1/100,
1/125, 1/180, 1/250,
1/350, 1/500, 1/725,
1/1000, 1/1500,
1/2000, 1/3000,
1/4000, 1/6000,
1/10000

シャッタースピードを優先して設定する ーシャッター優先モード (つづき)

1 撮影スタンバイ中 または 撮影中 に**オートロック／ホールドスイッチをまん中の位置にする。**

2 **プログラムAEボタンを押し、選択ダイヤルを回してシャッタースピードモードの AE S表示を出す。**

3 **選択ダイヤル押す。**
表示窓にはシャッタースピードの数値が表示される。

4 **選択ダイヤルを回して、好みのシャッタースピードを選ぶ。**
ダイヤルを回すと、シャッタースピードが変わる。数値が小さくなる(ファインダー内の表示が大きくなる)ほど速いシャッタースピードになる。

自動調節に戻すとき
オートロック／ホールドスイッチを「オートロック」にする。
またはプログラムAEボタンを押してプログラムAEモード表示を反転させ、もう一度ボタンを押す。

アイリス値がF1.6に自動調節されたときは
太陽光の下で撮影することをおすすめします。屋内ならばビデオライト(別売り)を使って撮影してください。

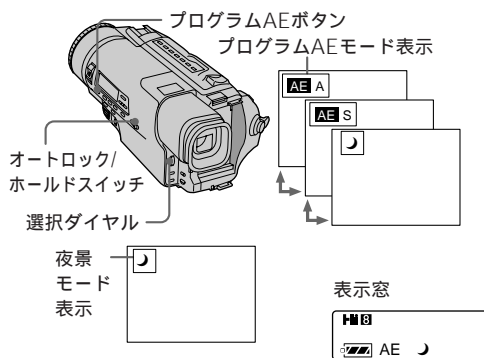
高輝度の被写体を撮影すると
シャッタースピードが速い場合、縦に薄く尾を引いたような画像(スミア現象)になることがあります。

夜のあかりをきれいに撮るー夜景モード

暗い場所で明るい被写体を撮るとき色とびをおさえます。

夜景、ネオンサイン、花火などを撮るとき。

夜景などを自動調節で撮ると、画面全体が暗いので明るくしようとしてゲインを上げます。そのため、画像にノイズが目立ったり、実際よりも明るく映ったりします。

夜景モードにすると、暗い場所の雰囲気を損なわずに撮影できます。ある程度暗い場所での撮影に効果があります。

1 撮影スタンバイ中 または 撮影中 に **オートロック／ホールドスイッチをまん中の位置にする。**

2 **プログラムAEボタンを押し、選択ダイヤルを回して夜景モードの☽表示を出す。**

自動調節に戻すとき
オートロック／ホールドスイッチを「オートロック」にする。
またはプログラムAEボタンを押して、プログラムAEモード表示を反転させ、もう一度ボタンを押す。

夜景モードにすると
シャッタースピードは1/60に固定されます。

暗い場所で高輝度の被写体を撮影すると
自動でピントが合いにくくなることがあります。手動でピントを合わせてください。

使いこなす ー撮影ー

手動調節で撮る

手動調節では、アイリス（レンズ絞り）、シャッタースピード、ゲインのそれぞれを自由に設定できます。

それぞれの値のめやすについては、42ページをご覧ください。

アイリス調節例
（1）

背景が明るすぎて被写体が黒くつぶれる（逆光）。

↓

F値を小さくする。

（2）

背景に比べて被写体が明るすぎる。

↓

F値を大きくする。

シャッタースピード調節例

被写体の動きが早く、ぶれる。

↓

シャッタースピードを速くする。

ゲイン調節例

暗い場面が実際よりも明るく映る。

↓

ゲインを下げる。

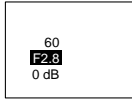
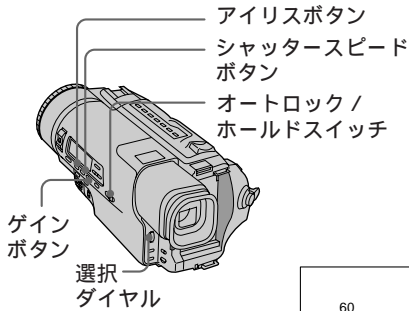
項目	可変段階（ステップ数）	明るさの変化	明るくなる	←→	暗くなる
アイリス	16ステップ	0.5EV	F1.6	←→	F19（クローズ）
シャッタースピード	高速: 16ステップ	0.5EV	1/60	←→	1/10000
	低速: 4ステップ	1.0EV	1/4	←→	1/30
ゲイン	8ステップ	0.5EV	+18dB	←→	–3dB

撮影状況に応じてアイリスやシャッタースピード、ゲインを調節します。この3つの要素が画像の明るさを決めるので、必要に応じて調節してください。

低速シャッタースピードについては、38ページをご覧ください。

- **アイリスは次の16段階から選べます。**
  F1.6, F2, F2.4, F2,8, F3.4, F4, F4.8, F5.6, F6.8, F8, F9.6, F11, F14, F16, F19, クローズ
- **シャッタースピードは次の20段階から選べます。**
  1/4, 1/8, 1/15, 1/30, 1/60, 1/90, 1/100, 1/125, 1/180, 1/250, 1/350, 1/500, 1/725, 1/1000, 1/1500, 1/2000, 1/3000, 1/4000, 1/6000, 1/10000
  本機のシャッタースピード表示は、1/100なら100のようになります。
- **ゲインは次の8段階から選べます。**
  –3dB, 0dB, 3dB, 6dB, 9dB, 12dB, 15dB, 18dB
- **ゲインはスチルカメラのフィルム感度に相当します。**
  ゲインを上げると、暗い場所でも明るく撮影できます。ただし、ゲイン値を上げすぎると画面が多少ざらつくことがあります。

表示窓

Hi8
IRIS F2.8

1 撮影スタンバイ中 または 撮影中 に **オートロックスイッチをまん中の位置にする。**

2 手動調節したいボタンを押す。
例えば、アイリスを調節するときはアイリスボタンを押す。
ボタンを押した項目の自動調節されていた値が出る。表示窓に数値が表示される。

3 選択ダイヤルを回して好みの値を選ぶ。

- アイリスの調節
  数値が小さくなるほどアイリスは開き、大きくなるほど絞られる。
- シャッタースピードの調節
  数値が小さくなる(ファインダー内の表示が大きくなる)ほど速いシャッタースピードになる。
- ゲインの調節
  数値が大きくなるほど感度が上がって明るくなり、小さくなるほど感度が下がって暗くなる。

設定値を変えるとき
設定値を変えたい項目のボタンを押して数値の表示を反転させ、選択ダイヤルで設定を変える。

手動調節した設定値を保持するとき
設定が終わったら、オートロック／ホールドスイッチを下げてホールドにする。アイリス、シャッタースピード、ゲイン、ホワイトバランスの各ボタンと選択ダイヤルによるそれらの設定が働かなくなる。

自動調節に戻すとき
戻したい項目のボタンを押してその項目の表示（数値）を反転させ、もう一度ボタンを押す。表示が消えて、自動調節になる。
すべての項目を自動調節に戻すときは、オートロック／ホールドスイッチを「オートロック」にする。

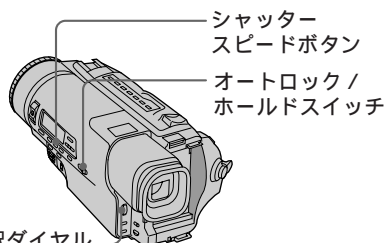
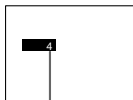
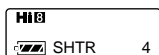
蛍光灯、ナトリウム灯、水銀灯など放電管による照明下で撮影すると
シャッタースピードによっては、画面が明るくなったり、暗くなったりする現象(フリッカー)が起こったり、色が変化したりすることがあります。このような場合には、シャッタースピードを関東地方など50Hzの地域では1/100に、関西地方など60Hzの地域では1/60に固定してください。

低速シャッターで撮る—スローシャッター

手動調節でシャッタースピードを1/30, 1/15, 1/8, 1/4にすると、スローシャッターになります。

暗い画像を明るく撮りたいときや、動いている被写体の動感を表現したいときなど。

シャッタースピードを遅くすると、露光量が多くなり、暗い場所で撮影しても、被写体が明るく撮れます。ただし、そのとき画面はざらつきます。

また、走っている車などを撮るとき、残像画像のようにしてスピード感を出すこともできます。

1 撮影スタンバイ中 または 撮影中 に**オートロック／ホールドスイッチをまん中の位置にする。**

2 **シャッタースピードボタンを押す。**
自動調節されていた値(60)が出る。

3 **選択ダイヤルを回して好みのシャッタースピードを選ぶ。**
数値が大きくなる(ファインダー内の表示が小さくなる)ほどシャッタースピードは遅くなる。

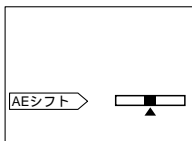
自動調節に戻すとき
オートロック／ホールドスイッチを「オートロック」にする。またはシャッタースピードボタンを押してシャッタースピード表示を反転させ、もう一度ボタンを押す。

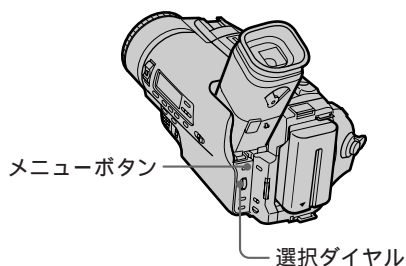
スローシャッター中には以下の操作ができません。また以下の操作中にはスローシャッターは働きません。
- スチル
- フラッシュモーション
- ルミナンスキー
- オーバーラップ
- ワイプ

スローシャッターでは、自動でピントが合いにくくなることがあります。
三脚などに固定して、手動でピントを合わせてください。

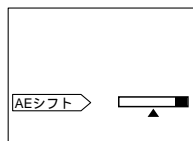
画像の明るさを調節する—AEシフト

画像をお好みの明るさに設定できます。

- 雪山や真夏の海岸など、明るすぎて被写体が暗く映るとき
- 舞台や夜景などが実際より明るく映るときなど。

画像を明るい方（＋）と暗い方（－）にそれぞれ３段階調節できます。画像を明るめにしたいときは＋側へ、暗めにしたいときはー側へ調節します。

AEシフトを使った撮影中に撮影条件が変わっても、本機が自動的に明るさを調節します。

1 撮影スタンバイ中 に
メニューボタンを押す。

2 **選択ダイヤルを回して「AEシフト」を選び、ダイヤルを押す。**

3 **選択ダイヤルを回して明るさを調節する。**

4 **メニューボタンを押す。**
メニュー画面が消えて、AEシフト表示が出る。

AEシフトを解除するとき
メニューで「AEシフト」をまん中の位置にする。

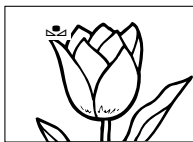
手動調節でアイリス値を設定しているときは、AEシフトは変更できません。

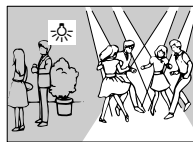
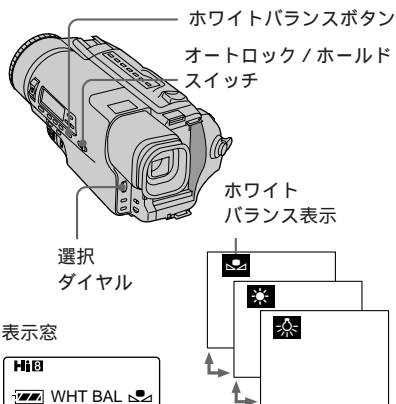
本機をテレビに接続して被写体を撮影しながら設定することをおすすめします。

使いこなす ー撮影ー

自然な色合いに調節する－ホワイトバランス

ビデオカメラでは、同じ色が照明によって違う色に写ります。ホワイトバランスを調節して、白い色を自然な白色に写します。

照明条件が変わる場所や日の出、日没などを屋外で撮るときなど。

ワンプッシュホワイトバランス
被写体を照らす照明条件を設定して、ホワイトバランスをその条件に合わせて撮影するときは、前もってワンプッシュホワイトバランスを設定しホワイトバランスを調節します。単一色の被写体や背景を撮影するときに使います。

屋外モード
屋外で夜景やネオン、花火などを撮影するときは、屋外モードにします。日の出や日没も、屋外モードで撮影するときれいに撮れます。

屋内モード
パーティーなど照明条件が変わる場所で撮影するときは、屋内モードにします。スタジオのようなビデオライトの下や、ナトリウムランプ、水銀灯の下で撮影するときにも使えます。

1 撮影スタンバイ中 または 撮影中 に**オートロック／ホールドスイッチをまん中の位置にする。**

2 **ホワイトバランスボタンを押し、選択ダイヤルを回して希望のホワイトバランス表示を出す。**

自動調節に戻すとき
オートロック／ホールドスイッチを「オートロック」にする。
またはホワイトバランスボタンを押してホワイトバランス表示を反転させ、もう一度ボタンを押す。

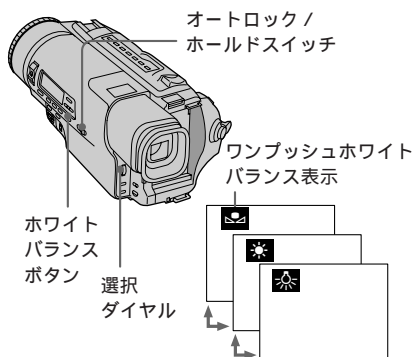
光源が変わったときは
撮影スタンバイ中にホワイトバランスを合わせ直してください。ただし撮影中はワンプッシュホワイトバランスの取り込みはできません。
- アイリスなどを手動調節して撮影中に光源が変わった場合は、オートロック／ホールドスイッチを１度「オートロック」にしてから、再びまん中の位置にします。
- 自動調節で撮影しているときに光源が変わったりバッテリーを交換した場合は、レンズを約10秒間白っぽい被写体に向けてください。それから撮影を始めると、よりよい色合いに調節されます。

蛍光灯照明下で撮影する場合は
ホワイトバランスを自動調節にすることをおすすめします。屋内モードで撮影すると、充分なホワイトバランスが取れない場合があります。

ホワイトバランスを手動で調節する—ワンプッシュホワイトバランス

撮影時の照明条件に合ったホワイトバランスを設定できます。撮影中に被写体のまわりの状況が変わっても照明条件に変化がなければ、そのままの色を自然に撮れます。

色は光源によって、同じ色でも違って見えます。太陽光下で白色の服が電灯下では黄色みがかり、蛍光灯下では青みがかって見えます。ホワイトバランスを自動調節にすると、どんな光源下でも同じ色になるように調整されます。撮影状況に応じてより自然な色にするには、手動調節してください。

1 撮影スタンバイ中 に **オートロック／ホールドスイッチをまん中の位置にする。**

2 **ホワイトバランスボタンを押し、選択ダイヤルを回して表示を出す。**

3 **付属の白いレンズキャップをレンズに取り付け、屋外では被写体に、屋内では光源に向ける。**

4 **選択ダイヤルを押す。**
ファインダー内の表示が早い点滅に変わる。ホワイトバランスが取れて、カメラに記憶されると点灯に変わる。

自動調節に戻すとき
オートロック／ホールドスイッチを「オートロック」にする。
またはホワイトバランスボタンを押してホワイトバランス表示を反転させ、もう一度ボタンを押す。

ファインダー内の表示について
遅い点滅：ホワイトバランスが未設定
早い点滅：選択ダイヤルでホワイトバランス調節中
点灯：ホワイトバランス設定終了

ワンプッシュホワイトバランスでホワイトバランスを設定すると
電源を取りはずさない限り、ホワイトバランス表示を変えたり電源を切っても、設定された条件を記憶しています。また、ボタン型リチウム電池が入っていれば、電源を取りはずしても約１時間は設定された条件を記憶しています。

スタジオ照明やビデオライトで撮影する場合は表示を出して撮影することをおすすめします。

決定ボタンを押しても表示が点滅から点灯に変わらないのは
まわりが暗いときやレンズキャップをつけずに白以外の被写体に向けたときなどです。その場合は明るい光源に向けたり、白い被写体を撮影してください。それでも点滅しつづける場合は、ホワイトバランスボタンを繰り返し押して表示なし（自動）にするかオートロックスイッチを「オートロック」にして撮影してください。

手動撮影のヒント

手動調節で撮影するときは、撮影中の画面全体の明るさを一定にすると見やすい映像になります。
撮影中の画面の明るさは、レンズに入ってくる光の量(露光量)によって変わります。露光量はアイリス、シャッタースピード、ゲインの3つの要素で決まります。すなわち、

> **露光量(EV) = アイリスによる露光量**
> **+ シャッタースピードによる露光量**
> **+ ゲインによる露光量**

という関係があります。撮影中に画面の明るさを一定にするには、この露光量を一定にする必要があります。下のグラフを参考にして、最適な値に手動調節してください。

ここで

アイリスF11、シャッタースピード1/60、ゲイン0dBのとき、アイリスをF5.6に手動調節する

場合を例とします。

本機では、アイリスやシャッタースピード、ゲインの設定を、それぞれ0.5EVずつの明るさで変化させることができます。(低速シャッターでは、1.0EVずつの変化となります。)
アイリスをF11からF5.6にすると、アイリスによる露光量は+2EVだけ明るくなります。
そこで、シャッタースピードとゲインの両方で－3EVだけ暗くすると、撮影中の画面の明るさはアイリス値を変える前と変わりません。

設定例1: シャッタースピードだけで調節する
シャッタースピードによる露光量を－2EV(5ステップ)だけ暗くします。つまり、シャッタースピードを1/60から1/250にします(①)。

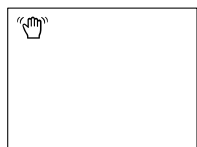
設定例2: シャッタースピードも自由に調節して、ゲインで明るさを調節する
シャッタースピードを1/500にしたいとき、1/60から1/500にするので、シャッタースピードによる露光量は－3EV(7ステップ)も暗くなってしまいます。したがって、ゲインによる露光量を+1EV(2ステップ)だけ明るくすれば、画面の明るさは変わりません。つまり、ゲインを0dBから+6dBにします(②)。ただし、ゲインを上げると画面は多少ざらつきます。

> グラフの1目盛りごとに明るさが0.5EVずつ変化します。
> たて軸: アイリス値(F値)
> よこ軸: シャッタースピード
> ななめ軸: ゲイン(dB)

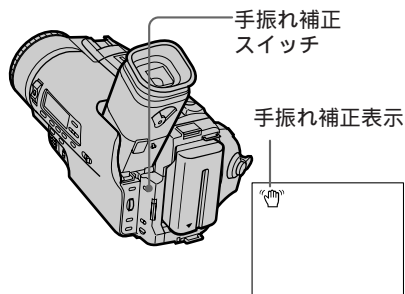
屋外の撮影では
天候などで被写体の明るさが変化する場合があります。

撮影シーンが変わるときには
もう一度設定し直すことをおすすめします。

手振れ補正を解除する

三脚を使うときは、手振れ補正を解除してください。手振れ補正機能は、ハンディカムを手に持って撮るときに効果があります。

手振れ補正「入」　手振れ補正「切」

手振れ補正はカメラの揺れを検知して、その揺れを補正します。カメラを三脚に取り付けていれば手振れの心配もないので、自然な感じになるように手振れ補正を解除します。

手振れ補正を使用しても画質や画角は変わりません。

手振れ補正を「切」にする

手振れ補正スイッチを「切」にする。
手振れ補正表示 が消える。

手振れ補正を働かせるとき

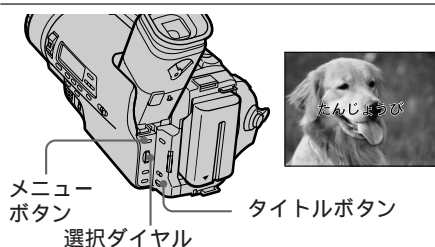
手振れ補正スイッチを「入」にして、手振れ補正表示 を出す。

- **手振れ補正が「入」になっていても、手振れが大きすぎると、補正しきれないことがあります。**
- **テレコンバージョンレンズ(別売り)を取り付けると**
  手振れ補正が効きにくくなります。
- **ワイドコンバージョンレンズ(別売り)を取り付けると**
  手振れ補正が「入」のときは多少ケラレが見えることがあります。その場合には手振れ補正を「切」にしてください。

使いこなす ―撮影―

タイトルを入れる

撮影中にタイトルを入れることができます。あらかじめ記憶している8種類のタイトルと自分で作ったタイトル2種類（46ページ）の中から、内容にあったものを選べます。

また、タイトルの色や表示位置も選べます。

場面の始めから入れるとき

1 撮影スタンバイ中に
タイトルボタンを繰り返し押して、出したいタイトルを表示させる。
最初のタイトルが点滅します。
点滅している間に繰り返し押して選びます。

2 撮影を始める。

3 タイトルを消したいところでタイトルボタンを押す。

場面の途中でタイトルを入れるとき

1 撮影スタンバイ中に
タイトルボタンを繰り返し押して、出したいタイトルを表示させる。

2 タイトルが点滅から点灯に変わったら、タイトルボタンを押してタイトルを消す。

3 撮影を始める。

4 タイトルを入れたい場面でタイトルボタンを押す。

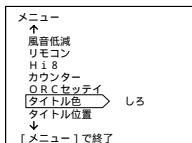
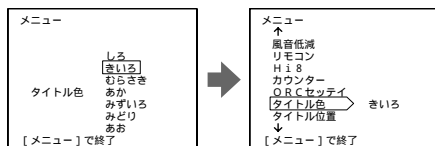
5 タイトルを消したい場面でタイトルボタンをもう一度押す。

- **タイトルの表示順**
  自分で作ったタイトル1→
  自分で作ったタイトル2→
  入学式→卒業式→
  たんじょうび→運動会→
  発表会→夏休み→祝→完…
  「完」が表示されたあと、1回タイトル表示が消え、「自分で作ったタイトル1」に戻ります。
- **「自分で作ったタイトル」は、あらかじめ作っていないときには表示されません。**
- **撮影中はタイトルを選べません。**
- **タイトルが表示されているときは、フェーダーボタンは働きません。**
- **タイトルは日付・時刻表示と同時には記録できません。**
- **タイトルを入れて撮影しているとき**
  メニューを出すとメニューが出ている間はタイトルが記録されません。

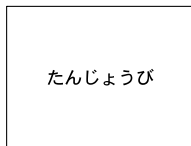
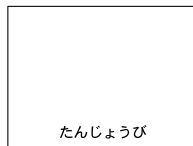
タイトルの色を選ぶ

7色のうちから好きな色が選べます。

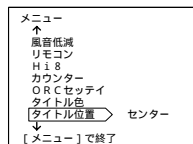
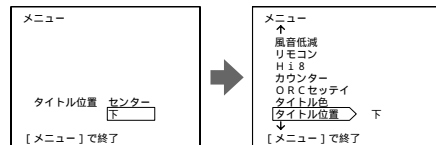
1 撮影スタンバイ中 に
メニューボタンを押す。

2 選択ダイヤルを回して、「タイトル色」を選び、ダイヤルを押す。

3 選択ダイヤルを回して、希望の色を選び、ダイヤルを押す。

4 メニューボタンを押す。
メニュー画面が消える。

タイトルの位置を選ぶ

「センター」または「下」を選べます。

「センター」のとき　　「下」のとき

1 撮影スタンバイ中 に
メニューボタンを押す。

2 選択ダイヤルを回して、「タイトル位置」を選び、ダイヤルを押す。

3 選択ダイヤルを回して、希望の位置を選び、ダイヤルを押す。

4 メニューボタンを押す。
メニュー画面が消える。

タイトル文字の大きさは
「センター」のときは大きく、「下」のときは小さくなります。

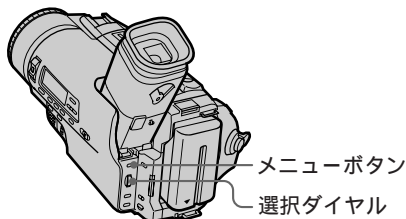
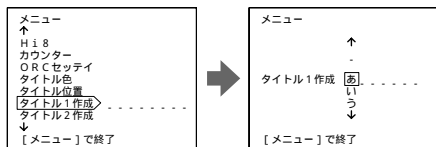
使いこなす －撮影－

タイトルを作る

10文字以内のタイトルを2種類まで作って本機に記憶させられます。ひらがなとアルファベット、数字が使えます。

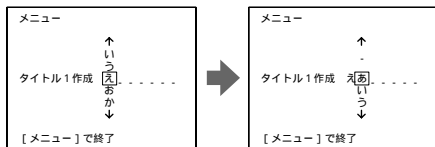
準備　カセットを取り出しておくことをおすすめします。

1 撮影スタンバイ中に
メニューボタンを押す。

2 選択ダイヤルを回して、「タイトル1作成」または「タイトル2作成」を選び、ダイヤルを押す。

3 選択ダイヤルを回して、文字を選び、ダイヤルを押す。

次の文字に移る。

4 手順3を繰り返して希望のタイトルを作る。

5 選択ダイヤルを回して、「↵」を選び、ダイヤルを押す。

タイトルが記憶される。

6 メニューボタンを押す。
メニュー画面が消える。

タイトルを変更するには

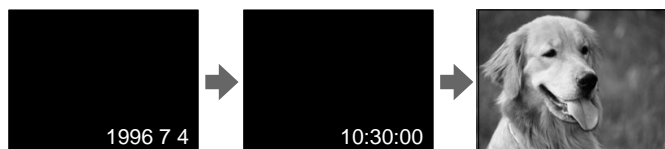
同じ手順で変更してください。手順2で、作成されているタイトルが表示されます。
希望の文字で「↵」を選びダイヤルを押すと、それより右の文字は消えて記憶されます。

手順4で、作ったタイトルが10文字になると
その時点でタイトルが記憶されます。（手順5は不要です。）

カセットを入れてタイトル作成中に、5分以上たつと自動的に電源が切れます。
それまで作成したタイトルは残っています。1度スタンバイスイッチを下げてからもう一度上げて、手順1からやり直してください。

作成したタイトルを消すには
左端の文字で「↵」を選び、ダイヤルを押します。空白を選んで消さないでください。空白のタイトルが記録されます。

撮影中に手動で日時を記録する

本機は撮影時の日付・時刻を常に自動的に記録し(データコード機能50ページ)、再生中に好きなところで出したり消したりできます。通常は手動で日時を記録することは不要ですが、データコード対応ではないビデオ機器で再生や編集などを行うときは、撮影時に手動で日時を記録します。手動で記録した日時は画像とともに再生され、消すことはできません。
表示窓でも確認できます。

手動で日時を記録するときは、シーンや日時の変わりめの10秒間だけ黒画面を背景に記録して、実際の撮影時には消しておくことをおすすめします。

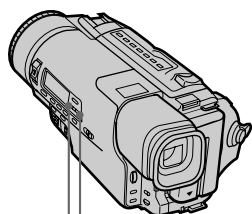
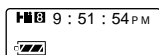
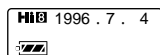
撮影中ずっと日時を入れたままにすると、再生したときに気になったり、編集でカットを入れ換えて表示の日時が前後してしまったりします。

時刻ボタン

日付ボタン

表示窓

Hi8 1996. 7. 4

Hi8 9:51:54PM

日付を入れるとき

撮影スタンバイ中 または 撮影中に

日付ボタンを押して日付表示を出す。

消すときは、日付ボタンをもう1度押す。

時刻を入れるとき

撮影スタンバイ中 または 撮影中に

時刻ボタンを押して時刻表示を出す。

消すときは、時刻ボタンをもう一度押す。

手動で記録する場合、日付と時刻は同時には記録できません。

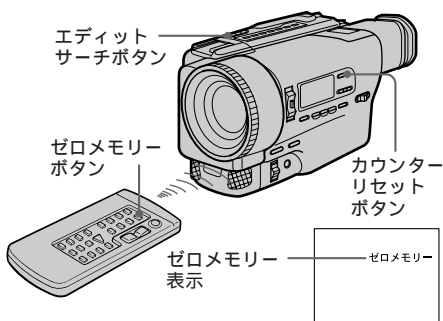
「ワイド シネマ」で撮影中は
日付や時刻、バッテリー残量表示が上にあがります。

ある部分だけ撮り直す

撮影スタンバイ中に、撮り直したい部分の始めと終わりを決めて、その部分だけ新しく撮り直すことができます。

撮影した画像の中に不用な部分があるときなど。

メニューで「カウンター」を「ノーマル」にしておきます(63ページ)。

撮り直したい部分の終了点(b)を記憶させて、開始点(a)から撮影を始めると、終了点(b)で自動的に撮影スタンバイになります。
新しく撮り直すと、前の画像と音声は消えます。

1 撮影スタンバイ中 に
エディットサーチボタンを押し続け、撮り直したい部分の終了点(b)で離す。

2 **カウンターリセットボタンを押す。**
カウンター値が「0:00:00」になる。

3 **エディットサーチボタンの–⊝側を押し続け、撮り直したい部分の開始点(a)で離す。**

4 **リモコンのゼロメモリーボタンを押す。**
ゼロメモリー表示が点滅する。

5 **スタート/ストップボタンを押して撮影を始める。**
新しく撮り直される。
カウンター値が「0:00:00」の付近で再び撮影スタンバイになる。

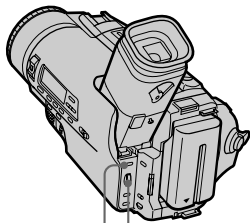
RCタイムコードが表示されているときは、この機能は働きません。

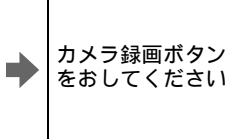
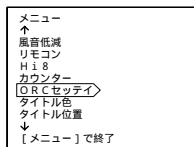
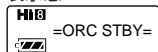
撮り直した部分の終了点で画像や音声が乱れることがあります。

テープに合わせてきれいに撮る−ORC設定

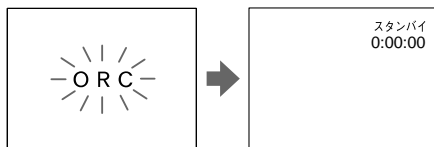
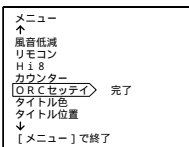
テープの種類や状態に合わせて、最適な状態で録画できるようにします。

カセットを入れて撮影を始める前。

カセットを入れて次の撮影の頭出しをしておきます。(14ページ)

1 撮影スタンバイ中 に
メニューボタンを押す。

2 **選択ダイヤルを回して、「ORCセッテイ」を選び、ダイヤルを押す。**

表示窓

3 **スタート/ストップボタンを押す。**
ORC表示が点滅する。設定が終わると(約5秒後)ORC表示が消え、撮影スタンバイに戻る。

設定完了です。

表示窓

ORC設定を確認するとき
手順2で「ORCセッテイ」を選ぶ。「完了」表示が出たらORCは設定済です。

カセットを取り出すと設定が解除されます。
カセットを入れるたびに設定し直してください。

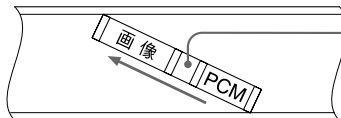
カセットの背の誤消去防止ツマミが赤くなっているテープにはORC設定はできません。

ORC設定をすると約0.1秒間の無記録部分ができます。
ただし、その後つづけて撮影すれば無記録部分はなくなります。

撮影日時を画面に出す －データコード

本機は撮影時の日付・時刻を自動で、画像とは別にテープに記録しています（データコード機能）。再生時に希望の場所で出したり消すことができます。データコード対応ではないビデオ機器ではできません。

本機の日付・時刻が合っているか確認する。（合っていないときは67ページ）

8ミリテープ
記録位置概念図

データコードによる日時記録は、画像と別の場所に行うので、再生時に日時表示の入／切を選び、不要の所では消しておくことができます。しかも、本機の時計合わせがしてあれば、日時情報は自動的に記録されます。

従来、日付・時刻は画像に重ねて記録していたので、一度記録すると消すことができず、また、撮影時に手動で操作する必要がありました。「撮影中に手動で日時を記録する」（47ページ）も、従来の記録方式です。

日付ボタン

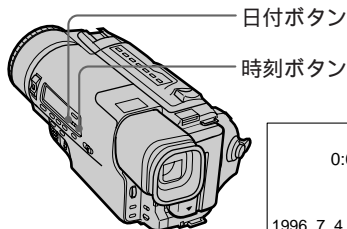
時刻ボタン

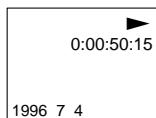
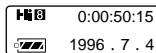
0:00:50:15

1996 7 4

表示窓

Hi8 0:00:50:15

1996. 7. 4

日付ボタンを押すと表示窓のテープ残量表示が日付表示に変わります。

リモコンで操作するとき（再生中に操作）
データコードボタンを１度押すと日付が出る。もう一度押すと時刻が出て、さらにもう一度押すと消える。

日付を出すとき

再生中 に

日付ボタンを押す。

消すときは、日付ボタンをもう一度押す。

時刻を出すとき

再生中 に

時刻ボタンを押す。

消すときは、時刻ボタンをもう一度押す。

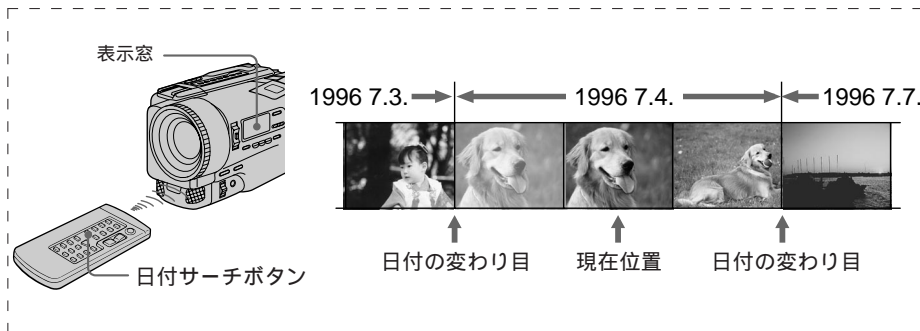
他の8ミリビデオデッキなどでPCMアフレコを行ったり、インデックス信号を入れたり、タイムコードアフレコをすると、データコードが消去されることがあります。

次のときは、---- -- -- または --:--:-- を表示します。
- 何も記録されていない部分
- テープの傷やノイズなどでデータコードを読み取れないとき
- ＬＰモードで記録されたテープのとき
- 日付・時刻を合わせないで撮影したテープのとき
- データコード機能が付いていないビデオカメラレコーダーで撮影したテープのとき
- スロー再生などの変速再生をしているとき

「ワイド シネマ」で撮影すると、黒い帯の部分にデータコードが表示されます。

撮影日の変わり目を探す

撮影した日付の変わり目を自動的に探し、そこから再生を始めることができます(日付サーチ)。
また、日付の変わり目を次々に探し、自動的に約10秒ずつ再生することもできます(日付スキャン)。

撮影日の変わり目を確認したり、撮影日ごとに編集するときなど。

撮影日の変わり目を探す
—日付サーチ機能

1 電源スイッチを「ビデオ」側にしてリモコンの日付サーチボタンを押す。

表示窓に「ヒヅケサーチ」が出る。

2 ◀◀巻戻し、または▶▶早送りボタンを押す。

日付をさかのぼるときは、巻戻しボタンを、日付を進めるときは、早送りボタンを押す。日付の変わり目で、自動的に再生が始まる。

撮影日の変わり目を次々に探す
—日付スキャン機能

1 電源スイッチを「ビデオ」側にしてリモコンの日付サーチボタンを2回押す。

表示窓に「ヒヅケスキャン」が出る。

2 ◀◀巻戻し、または▶▶早送りボタンを押す。

日付をさかのぼるときは、巻戻しボタンを、日付を進めるときは、早送りボタンを押す。日付の変わり目を次々に約10秒間ずつ再生し、▷再生ボタンを押すと通常の再生に戻る。

データコード機能のない他のビデオカメラレコーダーで撮影したテープでは
日付サーチ・日付スキャン機能は働きません。

日付の変更点の間隔は
日付の変わり目を正しく検出するために2分以上の間隔が必要です。間隔が短いと正しく検出されない場合があります。

日付サーチボタンは
日付サーチ→日付スキャン
↑—表示なし↩
と押すたびに変わります。

途中で止めるとき
日付サーチ、□停止、◀◀巻戻し、▷再生、▶▶早送りのいずれかのボタンを押します。

再生状態から始めると
日付の変更点を探している間、早送り、または巻き戻しの画像が映ります。このとき画面にノイズが入りますが故障ではありません。

インデックス信号の再生打ち込みや消去をすると頭出しが約10秒ずれることがあります。

記録済みのテープにRCタイムコードを打ち込んだ場合は
日付サーチ・日付スキャン機能は働きません。

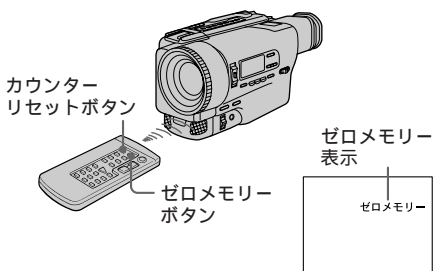
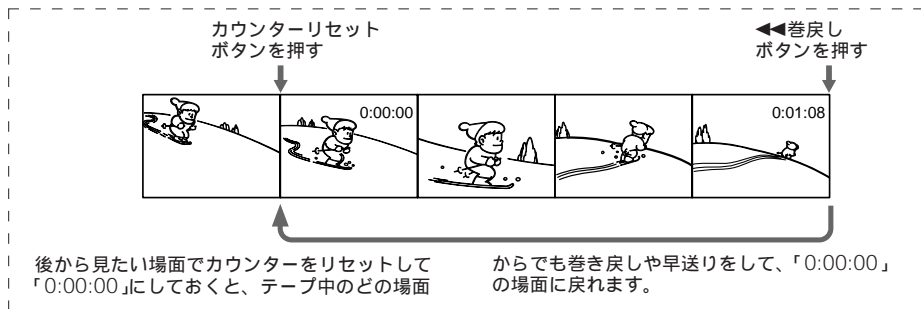
使いこなす —再生—

見たい場面にすばやく戻す－ゼロメモリー

カウンター値が「0:00:00」の地点まで巻き戻しや早送りをして、自動的に停止するようにできます。

再生中に、後からもう一度見たいと思う場面があったときなど。

メニューで「カウンター」を「ノーマル」にしておきます（63ページ）。

後から見たい場面でカウンターをリセットして「0:00:00」にしておくと、テープ中のどの場面からでも巻き戻しや早送りをして、「0:00:00」の場面に戻れます。

1 再生中 に
後から見たい場面でカウンターリセットボタンを押す。
カウンター値が「0:00:00」になる。

2 **再生し終わったら■停止ボタンを押す。**

3 **リモコンのゼロメモリーボタンを押す。**
ゼロメモリー表示が点滅する。

4 **◀◀巻戻しボタンを押す。**
カウンター値が「0:00:00」の付近で、自動的に停止する。

5 **▷再生ボタンを押す。**
カウンター値「0:00:00」の場面からもう一度再生される。

RCタイムコードが表示されているときは、この機能は働きません。

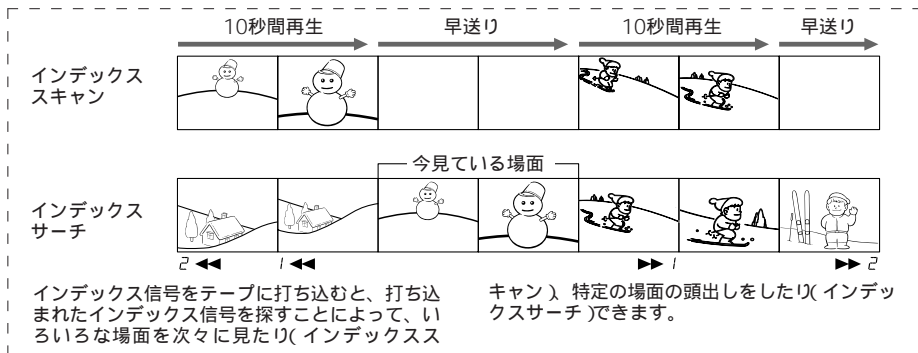
巻き戻す前にゼロメモリーボタンをもう1度押すと、ゼロメモリーが解除されます。

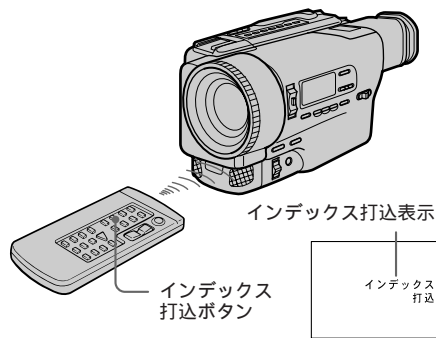
カウンター値と実際の時間に多少誤差が出ることがあります。

各場面の頭出しをする–インデックス機能

それぞれの場面の頭に、インデックス信号を打ち込んでおけば、あとで各場面の頭出しやとばし見ができます。リモコンでのみ操作できます。

1本のテープ中で、場面がいくつも変わるときなど。

インデックス信号をテープに打ち込むと、打ち込まれたインデックス信号を探すことによって、いろいろな場面を次々に見たり（インデックススキャン）、特定の場面の頭出しをしたり（インデックスサーチ）できます。

インデックス信号を打ち込む

頭出ししたい位置に、インデックス信号を打ち込みます。

撮影（または再生）の始めから打ち込むとき

撮影スタンバイ中 または 再生一時停止中 に

リモコンのインデックス打込ボタンを押してから、撮影または再生を始める。

インデックス打込表示が出て、約10秒後に消える。

撮影中（または再生中）に打ち込むとき

撮影中 または 再生中 に

インデックス信号を打ち込みたい場面でリモコンのインデックス打込ボタンを押す。

インデックス打込表示が出て、約10秒後に消える。

以下のテープには、インデックス信号が打ち込めません。
- カセットの背の誤消去防止ツマミが赤くなっているテープ。

インデックス信号を正しく検出するために
- 信号の間隔は2分以上開けてください。
- インデックス打込表示が点灯中は、撮影を止めないでください。

データコードを記録してあるテープにインデックス信号を打ち込むと

インデックス信号を記録した部分のデータコードが消えます。消えた部分を再生すると、直前のデータをそのまま表示します。

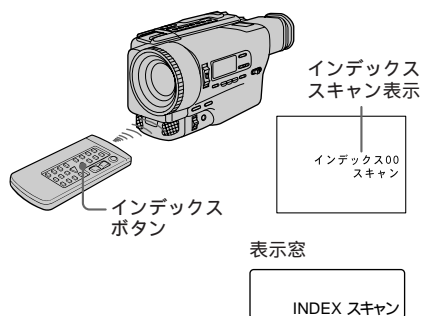
再生中に打ち込むと黒い帯が出ます。

この間は音声は出ません。すでに記録されている映像・音声には影響ありません。

以下の状態ではインデックス信号を打ち込めません。
- スタート／ストップモードスイッチを「⊥」または「5秒」に合わせたとき
- フェードアウト中

各場面の頭出しをするーインデックス機能（つづき）

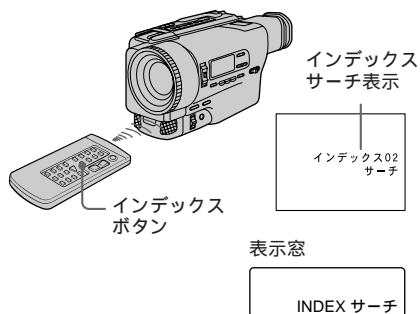
各場面を次々に見るーインデックススキャン

インデックス信号のついた場面を次々にさがし、自動的に約10秒ずつ再生します。

1 再生中 または 停止中 に
リモコンのインデックスボタンを押す。

2 **今より前の場面を見たいときは◀◀巻戻しボタンを、先の場面を見たいときは▶▶早送りボタンを押す。**
各場面を10秒ずつ再生する。

ふつうの再生に戻すとき
▷再生ボタンを押す。

ある場面の頭出しをするーインデックスサーチ

ある特定の場面をさがして、頭出しをすることができます。

1 **再生中 または 停止中 に**
頭出ししたいインデックス番号が出るまでリモコンのインデックスボタンを押す。
表示窓には「INDEXサーチ」が出て、次にインデックスを選ぶたびに1回点滅する。

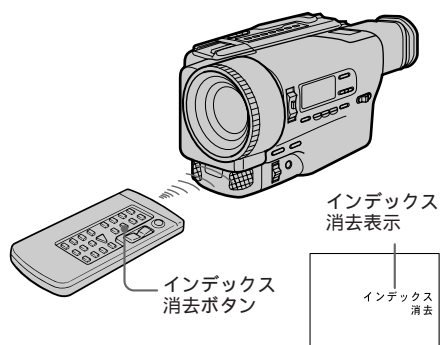
2 **今より前の場面を見たいときは◀◀巻戻しボタンを、先の場面を見たいときは▶▶早送りボタンを押す。**
選んだ場面の再生が始まる。

インデックス信号を記録した部分に他の8ミリビデオデッキなどでＰＣＭアフレコを行うと、インデックス信号が消去されることがあります。

電源スイッチを「ビデオ」にして録画すると、インデックス信号は録画の始めに自動的に打ち込まれます。
ただし、録画一時停止の状態から録画すると、打ち込まれません。

インデックスサーチで指定するインデックス番号は
前後に関係なく、今見ている場面から何場面離れているかを指定します。

インデックス信号を消す

不要なインデックス信号は、消すことができます。

1 再生中 または 停止中 に
消したい場面の頭出しをする。
インデックススキャンまたはインデックスサーチを行う。

2 消したい場面が再生されたら、リモコンのインデックス消去ボタンを押す。
消したい場面の頭が再生されてから約2秒〜10秒以内に押す。
消去が終わると、インデックススキャンで選んだ場合は次の頭出しに移る。インデックスサーチで選んだ場合はふつうの再生に戻る。

データコードを記録してあるテープのインデックス信号を消去すると
その部分のデータコードが消えます。

カセットの背の誤消去防止ツマミが赤くなっているテープのインデックス信号は消去できません。

他のビデオデッキで打ち込んだインデックス信号を、本機で検出はできますが、消去できないことがあります。

インデックス信号の消去中、画面下部に黒い帯が出て音声が聞こえなくなります。
テープ上の記録には問題ありません。

本機で打ち込んだインデックス信号を、他のビデオデッキで検出することはできますが、消去できない場合があります。

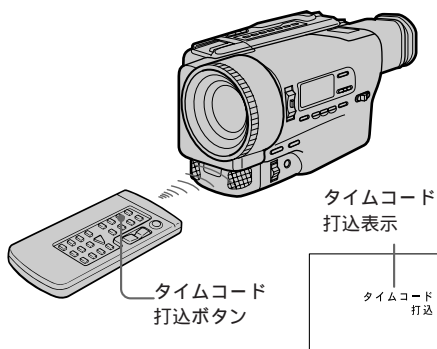
記録済みのテープにRCタイムコードを打ち込む

編集に便利なように、1コマ1コマの映像に対応したカウンター値（RCタイムコード）を記録済のテープに記録できます。
リモコンでのみ操作できます。

編集したテープやRCタイムコード機能のないビデオカメラレコーダーで撮影したテープに正確なカウンター値を記録したいとき。

1 電源スイッチを「ビデオ」にする。

2 テープの始めまで巻き戻し、再生一時停止にする。

3 リモコンのタイムコード打込ボタンを押す。
タイムコード打込表示が点滅する。

4 ❚❚一時停止ボタンを押す。
タイムコード打込表示が点滅から点灯に変わり、0:00:00:00からRCタイムコードが打ち込まれる。

途中で打ち込みを止めるとき
□停止ボタンまたは他のテープ走行ボタンを押す。

途中までRCタイムコードを記録してあるテープに打ち込むとき
手順2で、RCタイムコードが記録されている場面の最後を出し、手順3、4を行う。
RCタイムコードが打ち込まれていないテープの途中から打ち込む場合、テレビ画面に表示されている画像より数コマ前の画像から打ち込みが始まります。

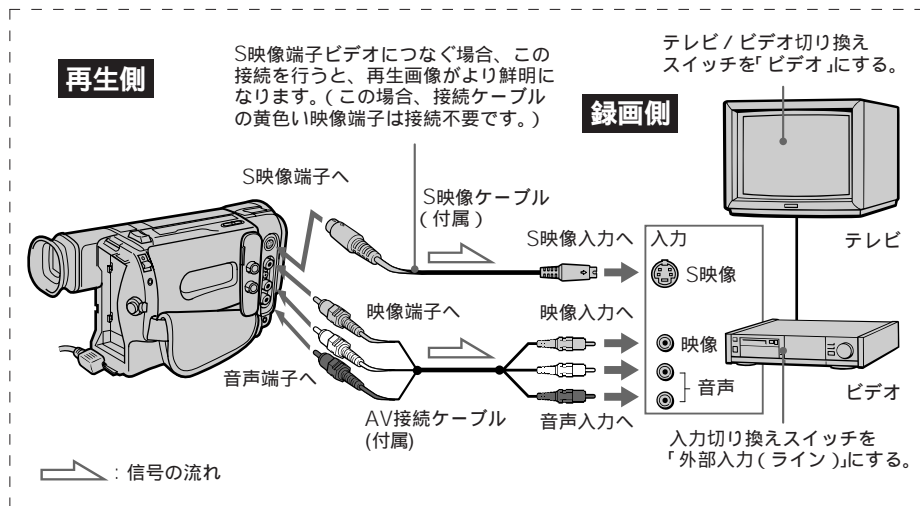
RCタイムコードを打ち込むと
画面下部に黒い帯が出ます。
すでに記録されている映像・音声には影響ありません。

- **記録済みのテープにRCタイムコードを記録すると、データコードは消去されます。**
- **以下の場合RCタイムコードの打ち込みが解除されます。**
  - 再生を始める前にタイムコード打込ボタンをもう一度押したとき
  - 再生を始める前にリモコンのインデックスボタンまたは日付サーチボタンを押したとき
  - 再生以外のモードに移ったとき
- **カセットの背の誤消去防止ツマミが赤くなっているテープには、タイムコードは打ち込めません。**
- **次の場合、再生中に**-:--:--:--**を表示します。**
  - 何も記録されていない
  - テープの傷みやノイズなどでRCタイムコードを読み取れない
  - RCタイムコード機能が付いていないビデオカメラレコーダーで撮影した

  このとき、RCタイムコードを打ち込み直すことをおすすめします。

他のビデオへ録画する

本機を再生機、他のビデオを録画機として使い、ダビング・編集ができます。

本機に撮影済みのカセットを、他のビデオに録画用のカセットを入れておきます。

1 **本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。**

2 **メニューで「エディット」を「入」にする。（64ページ）**

3 **本機のカセットを再生し、他のビデオに録画したい場面で❚❚一時停止ボタンを押す。**

4 **録画機を録画一時停止状態にする。**

5 **本機と録画機の❚❚一時停止ボタンを同時に押す。**

ダビング・編集が終わったら、メニューで「エディット」を「切」にする。

画面表示（16ページ）は消してください。
テープに記録されてしまいます。リモコンの画面表示ボタンを押して消します。

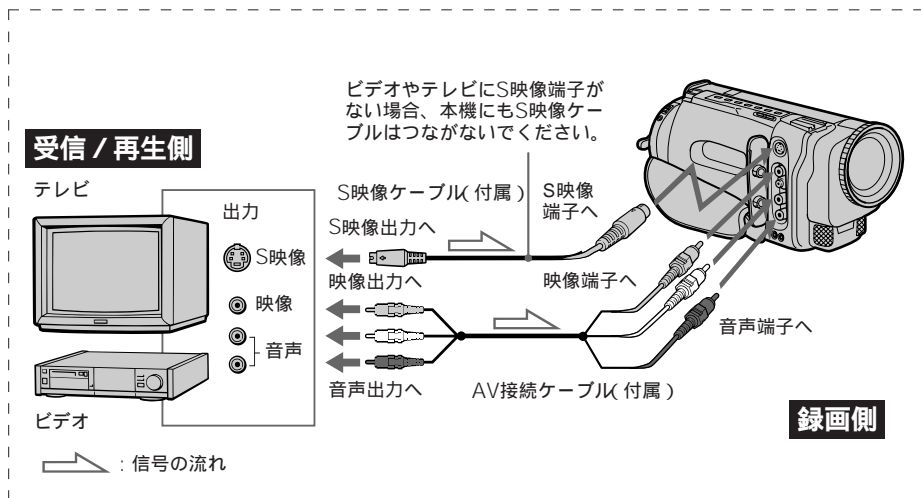
相手側のビデオは、8・Hi8方式だけでなく、VHS・VHS-C・S-VHS・S-VHS-C・β方式のどのビデオでも使えます。

ビデオの音声入力がひとつ(モノラル)の場合
AV接続ケーブル（付属）の黄色のプラグを映像入力へ、白いプラグを音声入力へつなぎます。（赤いプラグはどちらにもつながないでください。）音声はモノラルです。

ファインシンクロエディット対応
ファインシンクロエディット機能を持つビデオデッキと本機のLANC端子（76ページ）をLANCケーブルでつなげば、より精度の高い編集ができます。

ビデオやテレビの画像を録画する

本機を録画機として使い、他のビデオの画像やテレビ番組を録画・編集できます。

本機に録画用のカセットを、他のビデオに録画済みのカセットを入れておきます。

1 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

2 本機を録画一時停止にする。

●録画ボタンを2つ同時に押し、すぐにII一時停止ボタンを押す。

3 他のビデオで再生を始める。または、録画したいテレビ番組を受信する。

ビデオやテレビの画像がファインダーに出る。

4 録画したい場面でII一時停止ボタンを押して録画を始める。

二重音声放送は記録されません。

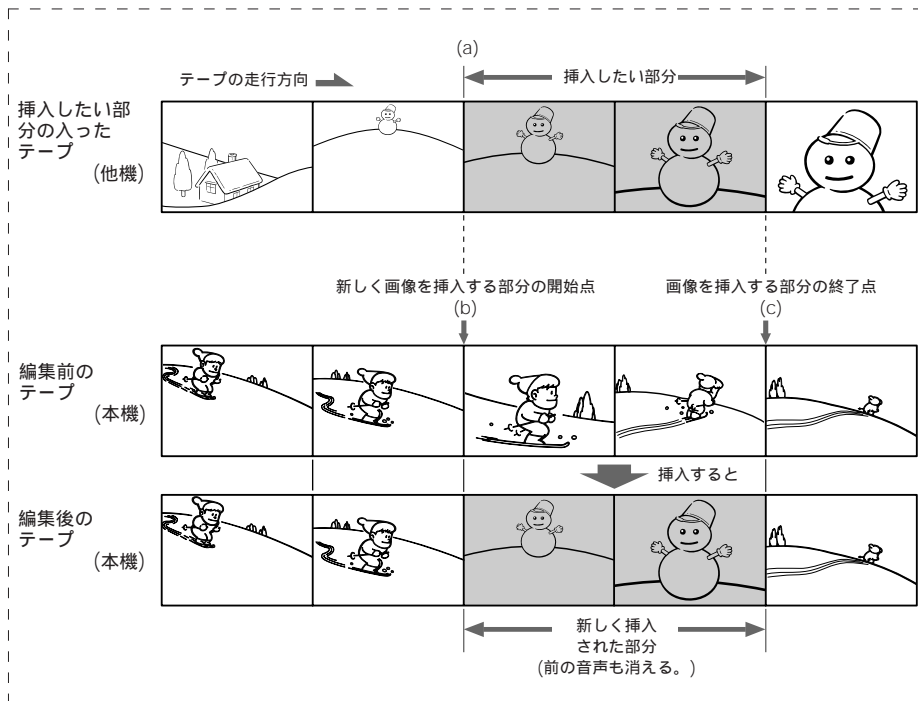
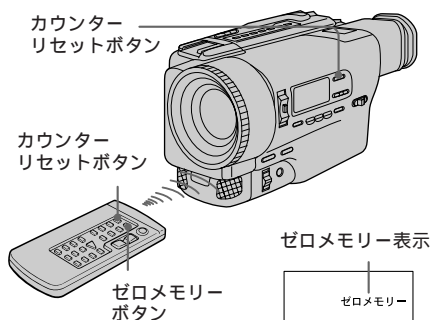
ビデオやテレビの音声出力端子がひとつ（モノラル）の場合
AV接続ケーブル（付属）の黄色いプラグを映像出力へ、白いプラグを音声出力へつなぎます。（赤いプラグはどちらにもつながないでください。）音声はモノラルです。

ビデオやテレビにS映像端子がある場合
S映像ケーブルをつなぐと、再生画像がより鮮明になります。

記録済みテープに新しく画像を挿入する

撮影、録画済みテープの指定した部分に、他のビデオからの映像・音声を挿入(インサート編集)できます。

- 58ページの接続と準備をし、他機に挿入したい部分の入ったテープを入れておきます。
- メニューで「カウンター」を「ノーマル」にしておきます(63ページ)。

(a)
テープの走行方向
挿入したい部分
挿入したい部分の入ったテープ
(他機)
新しく画像を挿入する部分の開始点
(b)
画像を挿入する部分の終了点
(c)
編集前のテープ
(本機)
挿入すると
編集後のテープ
(本機)
新しく挿入された部分
(前の音声も消える。)

記録済みテープに新しく画像を挿入する（つづき）

1 他機（再生側）で、挿入したい部分の始め（a）を探し、再生一時停止状態にする。

2 本機で、画像を挿入する部分の終了点（c）を探し、再生一時停止状態にする。
ピクチャーサーチ（17ページ）を使うと便利です。

3 本機またはリモコンのカウンターリセットボタンを押す。
カウンター値が「0:00:00」になる。

4 本機で、画像を挿入する部分の開始点（b）を探し、再生一時停止状態にする。

5 本機を録画一時停止状態にする。
●録画ボタンを2つ同時に押す。

6 リモコンのゼロメモリーボタンを押し、本機のゼロメモリー設定をする。
ゼロメモリー表示が点滅する。画像を挿入する部分の終了点（c）が記憶される。

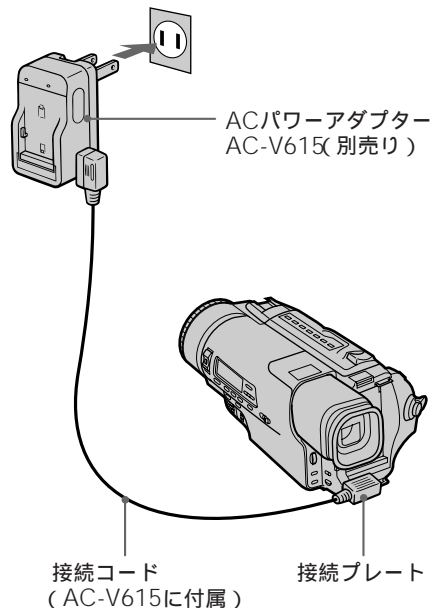
7 本機と再生機のII一時停止ボタンを同時に押す。
本機の挿入部分に、新たにビデオ（再生側）の映像・音声が録画され始める。
カウンター値が「0:00:00」の付近で、本機は自動的に録画一時停止になり、インサート編集が終わる。

終了点の位置を変えるとき
手順5のあとでゼロメモリーボタンをもう一度押し、ゼロメモリー表示を消して、手順2からやり直す。

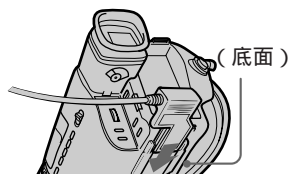
RCタイムコードが表示されているときは、この機能は働きません。

新しく挿入された部分を再生すると
終了点の画像や音声が乱れることがありますが、故障ではありません。

バッテリー以外の電源で使う

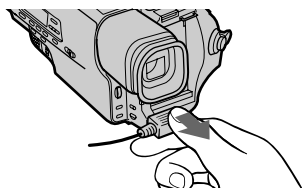
バッテリーの他に、家庭用のコンセントや自動車からの電源を使うことができます。

テープを再生するときや長時間本機を使用するときなどは、コンセントからの電源を使うとバッテリー切れの心配がなく便利です。

1 **ACパワーアダプターの電源コードをコンセントにつなぐ。**

2 **接続プレートを本機にカチッと音がするまで差し込む。**

接続コードを取りはずすとき

接続プレートを持って引き抜いてください。接続コードを引っぱらないようにしてください。引っぱるとコンセントからプラグが抜けることがあります。

コンセントにつないで使う

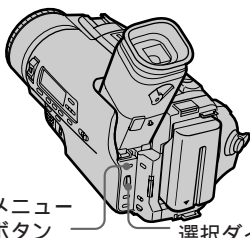
屋内の電源コンセントから電源をとります。別売りのACパワーアダプターAC-V615を使用します。
接続コードをつないで使うときはプラグが抜けやすいので市販の延長コードをお使いになることをおすすめします。

- **ACパワーアダプターAC-V500は使えません。**
- **自動車の電源で使うとき**
  別売りのDCパワーアダプターDC-V515を使って、自動車のシガレットライターソケットから電源をとります。DCパワーアダプターDC-V500は使えません。

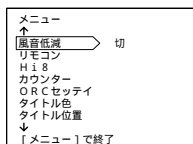
上の接続をして本体の電源スイッチを「切」にすると、次のバッテリー充電ができます。充電が始まると充電ランプが点灯します。

- 本体装着充電
  本体にバッテリーを取り付けたままでバッテリーを充電します。（NP-F730の場合、満充電に約360分、実用充電に約300分かかります。）
- 2個同時充電
  ACパワーアダプターと本体のそれぞれにバッテリを取り付けて、同時に充電します。充電されると両方のランプが消えます（実用充電）。どちらかが点灯していたら両方とも実用充電が完了していません。（NP-F730の場合、満充電に約420分、実用充電に約360分かかります。）

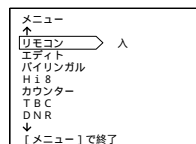
メニューで設定を変える

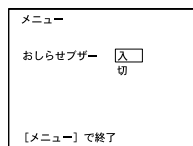
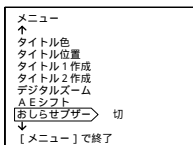
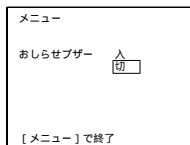
リモコンを使わないなどの設定や確認ができます。電源スイッチが「ビデオ」のときと「カメラ」のときでは、メニュー内容が異なります。

63〜65ページのような各種の設定、確認をしたいとき。

1 撮影スタンバイ中 または ビデオ のとき

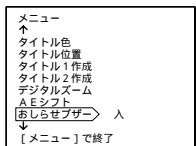
メニューボタンを押す。

撮影スタンバイ中のとき（「カメラ」のとき）

「ビデオ」のとき

2 選択ダイヤルを回して希望の項目が白枠で囲まれるようにする。

3 選択ダイヤルを押す。

希望の項目だけが表示される。

4 選択ダイヤルを回して設定を切り換え、ダイヤルを押す。

5 必要なだけ手順2〜4を繰り返す。

メニューを消すとき

メニューボタンを押す。

各設定項目の説明

お買い上げ時は、下表の●印側に設定されています。

電源スイッチの位置	項目	設定	意味	どんなとき
「カメラ」側、「ビデオ」側共通	**リモコン**	●入	付属のワイヤレスリモコンが働く。	通常はこの位置へ。
		切	リモコンが働かない。	他機のリモコンによって誤動作するときなど。
	Hi8	●オート	Hi8(ハイエイト)テープはHi8方式で、スタンダード8ミリテープはスタンダード方式で記録する。	通常は必ずこの位置へ。
		切	Hi8(ハイエイト)テープもスタンダード方式で記録する。	Hi8(ハイエイト)テープをスタンダード方式のビデオデッキで再生するつもりで記録するとき。
	カウンター	●ノーマル	通常のカウンターを表示する。	撮影時はこの位置へ。
		タイムコード	1コマ1コマの映像に対応したテープの位置をカウンターとして表示する。(RCタイムコード、56ページ)	より正確な編集をしたいとき。
	おしらせブザー	●入	撮影スタート／ストップ時や誤った操作をしたときにブザーが鳴る。	通常はこの位置へ。
		切	ブザー音が鳴らない。	ブザー音を消したいとき。
	ファインダー明るさ		ファインダーの明るさを調節する。	ファインダーを明るめや暗めにしたいとき。選択ダイヤルを上に回すと明るくなり、下に回すと暗くなる。通常はまん中にします。
	ファインダー	●パワーセーブ入	ファインダーから顔を離すと、自動的にファインダーの画像が消える。	通常はこの位置へ。
		パワーセーブ切	ファインダーから顔を離しても、ファインダーの画像が消えない。	常にファインダーに画像を出したいとき。

メニューで設定を変える(つづき)

各設定項目の説明 お買い上げ時は、下表の●印側に設定されています。

電源スイッチの位置	項目	設定	意味	どんなとき
「ビデオ」側	エディット	●切	ー	通常は必ずこの位置へ。
		入	編集時の画質劣化を低減する。	ダビング・編集で本機を再生機として使うとき。
	バイリンガル	●切	ステレオ音声または主+副音声で再生する。	→詳しくは69ページ。
		メイン	モノラル音声または主音声で再生する。	
		サブ	副音声で再生する。	
	TBC	●入	ジッター(再生時の画像の横ユレ)を、低減する。	通常はこの位置へ。
		切	補正を止める。	画像が乱れ、補正を止めたいとき。
	DNR	●入	画像の色ノイズを目立たなくする。	通常はこの位置へ。
		切	ー	動きの激しい画像で残像が目立つとき。

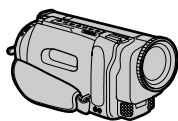
「エディット」、「バイリンガル」、「TBC」、「DNR」は、再生時のみ働く機能です。

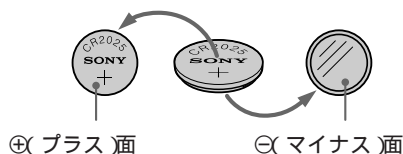
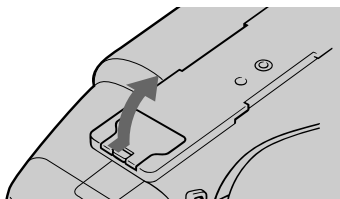
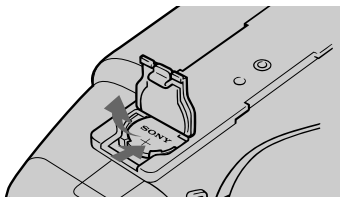
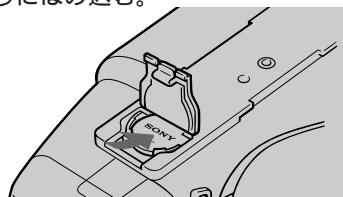
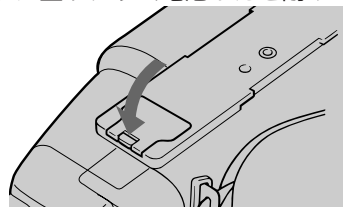
次のようなテープを再生するときは「TBC」を「切」にしてください。
- ダビング等を繰り返した。
- ゲーム機の信号などを記録した。

電源スイッチの位置	項目	設定	意味	どんなとき
「カメラ」側	**風音低減**	● 切	ー	通常はこの位置へ。
		入	「ボコボコ」という風音(低音)を低減する。	風がある場所で撮影するとき。
	ORCセッテイ		テープに最適な状態で録画設定する。	→詳しくは49ページ。
	タイトル色		タイトルの色を選ぶ。	→詳しくは45ページ。
	タイトル位置	● センター	タイトルを出す位置を選ぶ。	→詳しくは45ページ。
		下		
	タイトル1作成 **タイトル2作成**		自分でタイトルを作って本機に記憶させる。	→詳しくは46ページ。
	デジタルズーム	● 入	ズームが21倍を超えるとデジタルズームが働く。（42倍まで）	通常はこの位置へ。
		切	デジタルズームを使用しない。（ズームは21倍まで）	デジタルズームで画質が低下するのを避けるとき。
	AEシフト		画像をお好みの明るさに調整する。	通常はまん中にします。→詳しくは39ページ。
	録画ランプ	● 入	本体前面の録画ランプが撮影中に点灯する。	通常はこの位置へ。
		切	本体前面の録画ランプが撮影中に点灯しなくなる。	撮影中でも撮影していることをわからせたくないとき。
	日時あわせ		ー	時計を合わせ直すとき。→詳しくは67ページ。

メニュー項目で「風音低減」「リモコン」「エディット」「バイリンガル」は、電源をはずして5分以上たつとお買い上げ時の設定に戻ります。
その他の項目はボタン型リチウム電池が入っていれば、電源をはずしても、設定を保持しています。

ボタン型リチウム電池を交換する

電源をつけたまま交換します。ボタン型リチウム電池は⊕と⊖の向きを正しく入れてください。ボタン型リチウム電池が必要なのは、合わせた日付・時刻などを電源の入／切に関係なく保持するためです。

いつ使う？ 電源スイッチを「カメラ」にするとファインダーに「ボタン型リチウム電池を取りかえてください」のメッセージが出るとき。

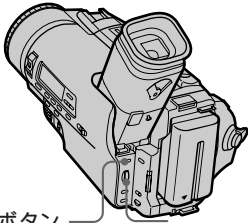
市販のボタン型リチウム電池CR2025を用意します。

1 ボタン型リチウム電池ぶたを開ける。

2 ボタン型リチウム電池を押し下げながら、引き出す。

3 新しいボタン型リチウム電池CR2025を⊕(プラス)面が見えるようにはめ込む。

4 ボタン型リチウム電池ぶたを閉める。

ボタン型リチウム電池について

- ボタン型のリチウム電池を誤って飲み込むことのないよう、本機および電池は特に幼児の手の届かないところに置いてください。
- 万一電池を飲み込んだ場合には、直ちに医師と相談してください。
- 接触不良を防ぐため、使用する前に電池を乾いた布でよくふいてください。
- 分解や加熱をしたり、ショートさせたり、火の中に入れたりしないでください。破裂するなどの危険があります。また、捨てるときは燃えないゴミとして適宜、処理してください。

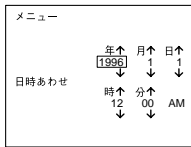
お買い上げ時に装着済みのボタン型リチウム電池は、1年もたないことがあります。

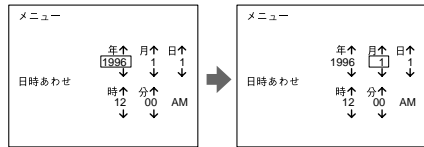
日付・時刻を合わせ直す

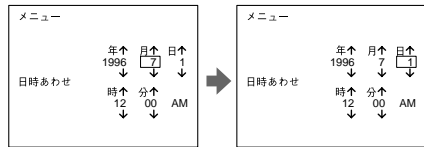
お買い上げ時には、あらかじめ日付・時刻は設定されています。

電源を取り付けないでボタン型リチウム電池を交換したときや、電源を取り付けていないときにボタン型リチウム電池が消耗したときなど。

例：1996**年**7**月**4**日午前**10:30**に合わせる。**
年→月→日→時→分の順で合わせます。

1 撮影スタンバイ中 に
メニューボタンを押す。

2 選択ダイヤルを回して「日時あわせ」を選び、ダイヤルを押す。

3 「年」を合わせる。

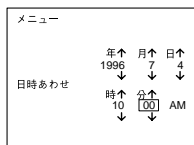
選択ダイヤルを回して「年」を合わせ、ダイヤルを押す。選択ダイヤルを回すごとに1年ずつ進む。行きすぎたら、ダイヤルを反対に回すと元に戻る。
1996年に合わせるときは、ダイヤルを押す。

4 「月」を合わせる。

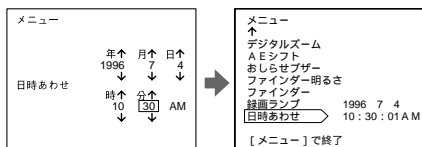
選択ダイヤルを回して「月」を合わせ、ダイヤルを押す。選択ダイヤルを回すごとに1つずつ進む。行きすぎたら、ダイヤルを反対に回すと元に戻る。

年表示は次のようになります。

→1996→1997→ ·····2000····· →2029

ご注意など

日付・時刻を合わせ直す（つづき）

5 **手順3、4と同様に、「日」、「時」を合わせる。**

6 **「分」と「秒」を合わせる。**

「分」を合わせて時報と同時に決定ボタンを押す。時計が動き始める。

7 **メニューボタンを押す。**

メニュー画面が消え、時刻表示がファインダーに出る。時刻表示を消すには、時刻ボタンを押す。

日付・時刻を確認する
日付ボタンを押せば日付が、時刻ボタンを押せば時刻がファインダーに出る。
もう一度押すと消える。

真夜中は12:00:00AM**、正午は**12:00:00PM**と表示されます。**

使えるビデオカセットと記録・再生方式

本機では、Hi8(ハイエイト)テープHi8とスタンダード8ミリテープ8が使えます。Hi8方式で記録するときは、Hi8テープをお使いください。
Hi8方式は、スタンダード8ミリ方式をもとに、さらに高画質・高解像度を追及するために開発された方式です。

記録するとき

Hi8テープHi8はHi8方式で、スタンダード8ミリテープ8はスタンダード8ミリ方式で記録されます。

テープの種類	記録したい方式	メニューの「Hi8」の設定
HIi8（ハイエイト）テープHi8	Hi8 Hi8(ハイエイト)方式	「オート」にする
	8スタンダード8ミリ方式	「切」にする
スタンダード8ミリテープ 8	8スタンダード8ミリ方式	どちらでもよい

本機ではLPモードで記録できません。

再生するとき

Hi8の高解像度を得るために、S映像ケーブルを使って接続することをおすすめします。記録済みのテープの記録方式を自動的に判別して再生します。また、SP､LPモードも自動的に判別して再生します。（LPモードの画質はSPモードより劣ります。）

音声多重記録テープを再生するとき

AFM Hi-Fiステレオ方式で二重音声を記録したテープを再生するときは、下の表のように必要に応じてメニューの「バイリンガル」を設定してください。メニューは電源スイッチを「ビデオ」にして出します。（64ページ）

メニューの「バイリンガル」の設定	テレビのスピーカーから聞こえる音声	
	ステレオを記録したテープ	二重音声を記録したテープ
「切」にする	ステレオ音声	主音声＋副音声
「メイン」にする	モノラル音声	主音声
「サブ」にする	不自然な音声になります	副音声

本機では二重音声放送は記録できません。

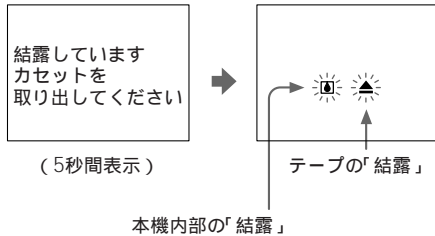
- **Hi8方式で記録したテープは、スタンダード8ミリビデオで正常に再生できません。**
- **次の場合、音声はモノラルです。**
  - 本機のAFM Hi-Fiステレオ方式で記録したテープをモノラル方式の8ミリビデオで再生する場合。
  - モノラル方式の8ミリビデオで記録したテープを本機で再生する場合。

間違って消さないために
カセットの背にある誤消去防止ツマミを横にずらして「赤」にします。

ご注意など

お手入れについて

結露について

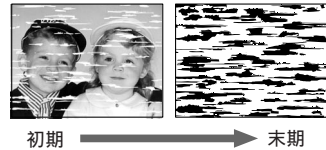
結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本機の心臓部であるヘッドやテープ、レンズに水滴が付くことです。テープがヘッドに貼り付いて、ヘッドやテープを傷めたり、故障の原因になります。結露が起こると、ファインダーに下のように警告表示が出ます。ただし、レンズの結露では表示は出ません。

結露が起きたときは

カセットは直ちに取り出してください。警告表示が出ている間は、カセット取り出しスイッチ以外は働きません。
電源を切ってカセット入れを開けたまま、結露がなくなるまで（約1時間）放置してください。
電源を入れてもお知らせメッセージが出ず、カセットを入れてテープ走行ボタンを押しても⏏が点滅しなければ使用できます。

ヘッドをきれいにする

ビデオヘッドが汚れると、正常に録画できなかったり、ノイズの多い再生画像になったりします。次のような症状になったときは、別売りの乾式クリーニングカセットV8-25CLHを使ってヘッドをきれいにしておきましょう。

- ファインダー内に「⊗ヘッドが汚れています」と「クリーニングカセットをつかってください」の表示が交互に出る。または⊗が点滅する。
- 再生画面がザラついている。
- 再生画面が不鮮明。
- 再生画像が出ない。

ビデオヘッドが汚れているときの画像

このような画像になったら、
クリーニングカセットをお使いください。

結露は次のように、温度差のある場所へ移動したり、湿度の高い場所で起こります。

- スキー場のゲレンデから暖房の効いた場所へ持ち込んだとき
- 冷房の効いた部屋や車内から暑い屋外へ持ち出したとき
- スコールや夏の夕立のあと
- 温泉など高温多湿の場所

結露を起こりにくくするために

本機を温度差の激しい場所へ持ち込むときは、ビニール袋に空気が入らないように入れて密封します。約1時間放置し、移動先の温度になじんでから取り出します。

ヘッドは長時間使用すると摩耗します。

クリーニングカセットを使っても鮮明な画像に戻らないときは、ヘッドの摩耗が考えられます。このときは、ヘッドの交換が必要です。お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

故障かな？と思ったら

修理にお出しになる前に、もう一度点検してみましょう。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店、ソニーのサービス窓口、またはお客様ご相談センターにお問い合わせください。
ファインダーに見慣れない表示が出たときは、82ページをご覧ください。

	こんなときは	これが原因です。	次のことを点検してください。	参照ページ
撮影中	**スタート／ストップボタンを押してもテープが走行しない。**	•電源スイッチが「カメラ」になっていない。 •テープが終わりになっている。 •カセットが誤消去防止状態になっている。 •テープがヘッドドラムに貼りついている（結露）。	•「カメラ」にする。 •巻き戻すか、新しいテープを入れる。 •そのテープで撮るなら赤いツマミを元に戻す。または新しいテープを入れる。 •カセットを取り出して、約1時間してからもう1度入れ直す。	12 10、17 69 70
撮影中	**すぐに撮影が止まる。**	スタート／ストップモードスイッチが「 」または「5秒」になっている。	スタート／ストップボタンを押すごとに撮影を始める／終わるようにするときは、「 」にする。	18
撮影中	**電源が途中で切れる。**	撮影スタンバイ状態が5分以上続いたとき、バッテリーの消耗を防ぎ、テープを保護するために自動的に電源が切れます。	1度スタンバイスイッチを下げてから、もう1度上げる。	12
撮影中	**ファインダーの画像がはっきりしない。**	視度調節が正しくない。	視度調節する。	11
撮影中	**画像が明るすぎる、または暗すぎる。**	•AEシフトが設定されている。 •ファインダー明るさが設定されている。	•メニューの「AEシフト」をまん中の位置にする。 •メニューの「ファインダー明るさ」をまん中の位置にする。	39 39
撮影中	**自然な色合いが出ない。**	•オートロック／ホールドスイッチがまん中の位置にあって、ファインダーにホワイトバランス表示が出ている。 •ホワイトバランスが自動調節できにくい状態で撮影している。	•オートロック／ホールドスイッチを「オートロック」にする。 •手動でホワイトバランスを調節する。	28 40
撮影中	**手振れ補正が働かない。**	•手振れ補正スイッチが「切」になっている。	•「入」にする。	43
撮影中	**オートフォーカスが働かない。**	•手動ピント合わせになっている。	•フォーカススイッチを「自動」にする。	30

故障かな？と思ったら（つづき）

	こんなときは	これが原因です。	次のことを点検してください。	参照ページ
撮影中	**フェーダーボタンが働かない。**	•スタート／ストップモードスイッチが「」または「5秒」になっている。 •タイトルを表示している。 •空白のタイトルを表示している。	•撮影モード「」にする。 •タイトルを消す。 •メニューを用いて空白のタイトルが作成されていないか確認する。	18 46 44
撮影中	**ファインダー内に⊗が点滅している。**	ビデオヘッドが汚れている。	別売りのクリーニングカセットできれいにする。	70
撮影中	**ファインダーの画像が消えている。**	•メニューの「ファインダー」が「パワーセーブ入」になっていると、バッテリーの消耗を防ぐため、ファインダーから顔を離すと自動的に消えます。	•顔をファインダーに約1cmまで近づける。 •自動的に消えないようにしたいときは、メニューの「ファインダー」を「パワーセーブ切」にする。	3、11 63
再生中	**メニューの「ファインダー」を「パワーセーブ入」にしているときに顔を離してもファインダーの画像が消えない。**	太陽光や白熱灯の影響で消えないことがあります。故障ではありません。	—	11
再生中	**テープ走行ボタンが働かない。**	•電源スイッチが「ビデオ」になっていない。 •テープが終わりになっている。	•「ビデオ」にする。 •テープを巻き戻す。	16 17
再生中	**ろうそくの火やライトなどを暗い背景の中で撮ると、縦に帯状の線が出る。**	背景とのコントラストが強い被写体の場合に出る現象で、故障ではありません。	—	—
再生中	**明るい被写体を写すと、縦に尾を引いたような画像になる。**	スミア現象といい、故障ではありません。	—	—
再生中	**データコードが–––– ––––になっている。**	インデックスの打ち込みや消去をしたところを再生している。 日付／時刻を合わせないで記録した。	—	53–55
再生中	**画像がぼけたり、映らなかったりする。**	•テレビのビデオ用チャンネルが正しく調整されていない。 •メニューの「エディット」が「入」になっている。 •ビデオヘッドが汚れている。	•調整し直す。 •「切」にする。 •別売りのクリーニングカセットできれいにする。	— 64 70

	こんなときは	これが原因です。	次のことを点検してください。	参照ページ
再生中	**別売りのハンディカムステーションに取り付けて再生したが、映像も音声も出ない。**	RFUアダプターが、本機にもハンディカムステーションにもつないである。	本機につないだRFUアダプターを取りはずす。	—
	音声が小さい。または聞こえない。	•メニューの「バイリンガル」を「サブ」にしてステレオで記録されたテープを再生している。	•「バイリンガル」を「切」にする。	64
撮影中・再生中	**電源スイッチをビデオ／カメラにしても動作しない。**	•バッテリーが消耗している／入っていない／消耗が近い。 •ACパワーアダプターのプラグがコンセントからはずれている。	•充電されたバッテリーを入れる。 •コンセントに差し込む。	8 61
	バッテリーの消耗が早い。	•温度が極端に低いところで撮っている。 •充電が不充分。 •バッテリーそのものの寿命。	— •充分に充電する。 •新しいバッテリーに交換する。	— 8 —
	カセットが取り出せない。	•電源(バッテリーやパワーアダプター)がはずれている。 •バッテリーが消耗している。	•電源をきちんと接続する。 •充電されたバッテリーを入れる。	9、61 8
	💧や⏏が点滅し、カセット取出しスイッチ以外働かない。	結露している。	カセットを取り出して、約1時間してからもう一度入れ直す。	70
その他	**付属のワイヤレスリモコンが働かない。**	•メニューの「リモコン」を「切」にしている。 •リモコンと本体のリモコン受光部の間に障害物がある。 •リモコンの乾電池の⊕極と⊖極が、正しく入っていない。 •乾電池そのものの寿命。	•「入」にする。 •障害物を取り除く。 •⊕極と⊖極を正しく入れる。 •新しい乾電池に交換する。	63 — 78 78
	カウンター表示、日付または時刻表示が点滅している。	ボタン型リチウム電池が消耗している。	新しいボタン型リチウム電池に交換する。	66
	日付または時刻表示が「−−:−−」になる。	—	日付・時刻を合わせ直す。	67
	レンズ内部に気泡が見える。	飛行機や高山など気圧の低い場所で使用中に、レンズ内部に気泡が見えることがありますが、故障ではありません。撮影に支障はありません。 なお、気泡は、通常、約1週間程度で消えますが、気圧や使用条件により変わります。	—	—

保証書とアフターサービス

必ずお読みください

録画内容の補償はできません
万一、ビデオカメラレコーダーやテープなどの不具合により録画や再生されなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。
保証書は国内に限られています
このビデオカメラレコーダーは国内仕様です。外国で万一、故障、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

保証書

この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。

保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを
"故障かな？と思ったら"の項を参考にして故障かどうかお調べください。
それでも具合の悪いときはサービスへ
お買い上げ店、または添付の"ソニーご相談窓口のご案内"にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。
保証期間中の修理は
「CCD-TR3300テクニカルインフォメーションセンター」へご相談ください。
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。
保証期間経過後の修理は
修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。
部品の保有期間について
当社はビデオカメラレコーダーの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

海外で使うとき

本機は外国でもお使いになれます

別売りのACパワーアダプターAC-V615は、AC100V〜240V・50/60Hzの広範囲な電源でお使いいただけます。
また、バッテリーパックも充電できます。ただし、電源コンセントの形状が異なる国では、電源コンセントにあった変換プラグアダプターをあらかじめ旅行代理店でおたずねの上、ご用意ください。
再生画像をテレビで見るには、日本と同じカラーテレビ方式(NTSC)で、映像／音声入力端子付きのテレビ(またはモニター)および接続ケーブルが必要です。

海外のコンセントの種類

日本と同じカラーテレビ方式(NTSC)を採用している国
(五十音順)

- アメリカ合衆国
- エクアドル
- エルサルバドル
- カナダ
- キューバ
- グアテマラ
- グアム
- コスタリカ
- コロンビア
- スリナム
- セントルシア
- 大韓民国
- 台湾
- チリ
- ドミニカ
- トリニダード トバゴ
- ニカラグア
- ハイチ
- パナマ
- バミューダ
- バルバドス
- フィリピン
- プエルトリコ
- ベネズエラ
- ペルー
- 米領サモア
- ボリビア
- ホンジュラス
- ミクロネシア
- ミャンマー
- メキシコ

(NHK文研月報による)

主な仕様

システム

録画方式	回転2ヘッドヘリカルスキャン FM方式
録音方式	回転ヘッドFM方式
映像信号	NTSCカラー、EIA標準方式
使用可能カセット	8ミリビデオ方式のビデオカセットテープ
録画時間	SPモード:2時間(E6/P6-120使用時)
再生時間	SPモード:2時間 LPモード:4時間(E6/P6-120使用時)
早送り、巻き戻し時間	約5分(E6/P6-120使用時)
映像素子	CCD固体映像素子
ビューファインダー	電子ビューファインダー(カラー)
レンズ	21倍ズームレンズ f=3.9～81.9mm (35mmカメラ換算では37～777mm) F1.6～3.6 フィルター径52mm
色温度切り換え	自動追尾、屋内 (3200K)、 屋外 (5800K)
最低被写体照度	9ルクス(F1.6) (スローシャッター時　1ルクス)
被写体照度範囲	9～100,000ルクス
推奨被写体照度	100ルクス以上
シャッタースピード切り換え	1/4～1/10000(20段階)
アイリス切り換え	自動／手動(16段階)
ゲイン切り換え	自動／手動(8段階)

入・出力端子

S映像端子	入力／出力自動切り換え 4ピンミニDIN 輝度信号: 1Vp-p、75Ω不平衡 色信号: 0.286Vp-p、75Ω不平衡
映像端子	入力／出力自動切り換え ピンジャック(1) 75Ω不平衡
音声端子	入力／出力自動切り換え ピンジャック(L、R) 入力時: 327mV、インピーダンス47kΩ以上 出力時: 327mV、(47kΩ負荷時) インピーダンス　2.2kΩ以下
RFU DC出力端子	特殊ミニジャック DC5V
ヘッドホン端子	ステレオミニジャック(ø3.5)
LANC端子	ステレオミニミニジャック(ø2.5)
マイク入力端子	ステレオミニジャック、0.388mV、低インピーダンスマイク用 DC2.5～3.5V、出力インピーダンス6.8kΩ(ø3.5)
ハンディカムステーション端子	20ピン特殊コネクター
インテリジェントアクセサリーシュー端子	8ピン特殊コネクター

電源部、その他

電源電圧	バッテリー端子入力7.2V/ ハンディカムステーション端子入力8.4V
消費電力	カメラ録画時: 4.6W
動作温度	0℃～+40℃
保存温度	－20℃～+60℃
最大外形寸法	110×110×215mm (幅×高さ×奥行き)
本体質量	約930g
撮影時総質量*	バッテリーNP-F530使用時: 約1.1kg バッテリーNP-F730使用時: 約1.2kg *バッテリー、ボタン型リチウム電池CR2025、テープE6-120HMED含む。
内蔵マイクロホン	ステレオ
付属品	ワイヤレスリモコン (RMT-714) (1) 単3形乾電池(リモコン用)(2) AV接続ケーブル(1) S映像ケーブル(1) ボタン型リチウム電池CR2025 (本体に装着済み)(1) レンズキャップ(本体に装着済み)(1) 撮り方ビデオ(1) 取扱説明書(1) 安全のために(1) 保証書(1) ソニーご相談窓口のご案内(1)

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

各部のなまえ 使いかたの説明は、( )内のページにあります。

本体

表示窓(47、79、82ページ)

電源スイッチ
(12ページ)

手振れ補正スイッチ
(43ページ)

メニューボタン(62ページ)

選択ダイヤル(62ページ)

ピクチャーエフェクトボタン
(23ページ)

デジタルエフェクトボタン
(24～26ページ)

タイトルボタン
(44～46ページ)

ワイドTVボタン
(22ページ)

アイカップ
(4ページ)

視度調節つまみ
(11ページ)

ズームレバー
(13ページ)

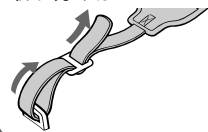
バッテリー取りはずし
ボタン(9ページ)

スタンバイスイッチ
(12ページ)

スタート/ストップ
ボタン(12ページ)

ショルダーベルト取り付け部

取り付けかた

スタート/
ストップモード
スイッチ
(20ページ)

LANC⏺(リモート)マークについて

⏺は、LANC端子のマークです。LANC端子とは、ビデオ機器と周辺機器を接続し、テープ走行などをコントロールできるようにした端子です。

このマークは、ソニーの8ミリビデオ機器関連商品の純正マークです。

ソニーの8ミリビデオ機器をお求めの際は、同じマークもしくはソニーのロゴマークがついているビデオ機器関連商品をおすすめします。

ご注意など

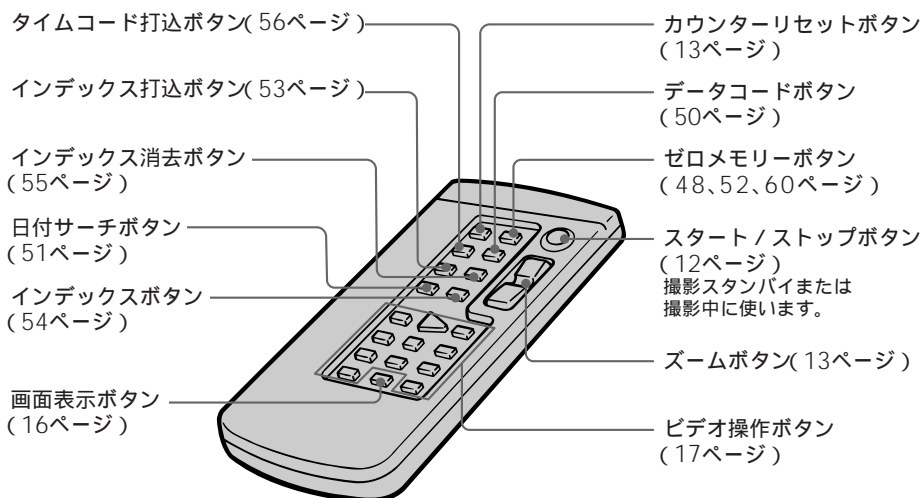
インテリジェントアクセサリーシューについて

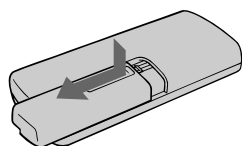
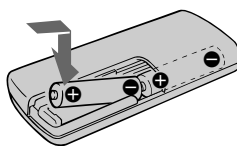
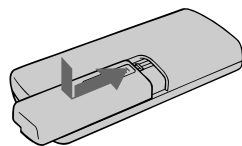
- 別売りの専用マイクやビデオライトなどをお使いになると、本機から電源を供給できます。
- 本機のスタンバイスイッチに連動して、アクセサリーの電源の入／切ができます。(お使いになるアクセサリーの取扱説明書をあわせてご覧ください。)
- 取り付けたアクセサリーが外れて落ちたりしないように、外れにくい構造になっています。アクセサリーを取り付けるときは、押しながら奥まで差し込み、取付ネジを確実に締め付けてください。
- アクセサリーを取りはずすときは、取付ネジをゆるめ、押しながらはずしてください。

別売りの外部マイクを使う場合

マイク(プラグインパワー)端子はプラグインパワー方式の外部マイク用電源端子とマイク入力端子が兼用になった端子です。2ピンプラグのマイクの場合は、DC出力端子を外部マイク用電源端子としてお使いください。この場合、風音低減機能は働きません。

次のページへつづく

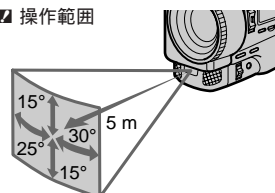
ワイヤレスリモコン

電池の入れかた

1 押しながらずらす。

2 入れる。

3 元に戻す。

乾電池について

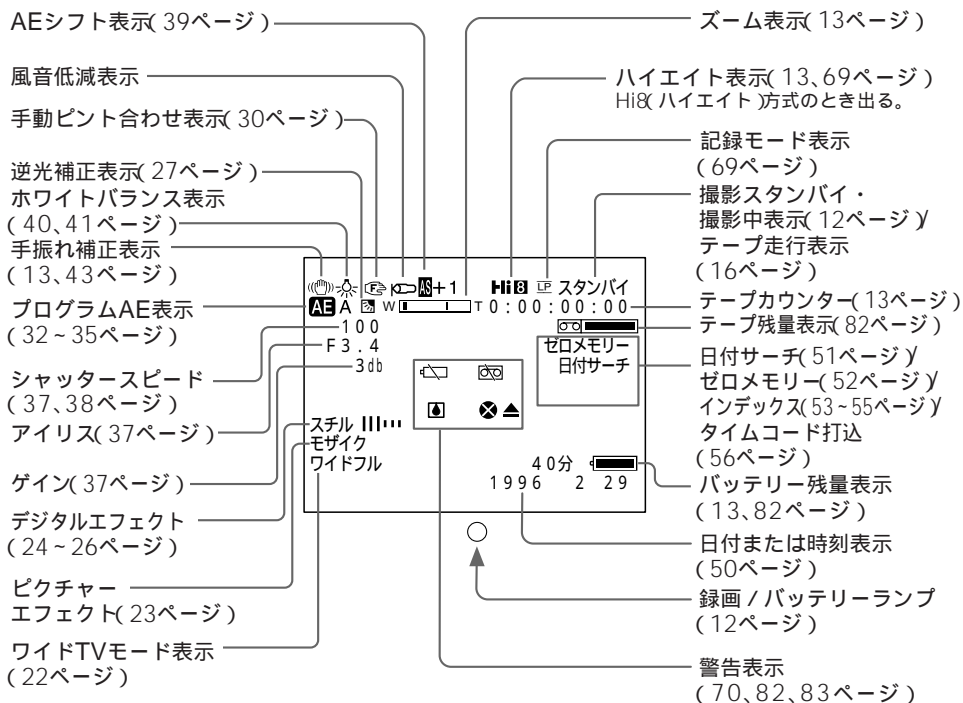
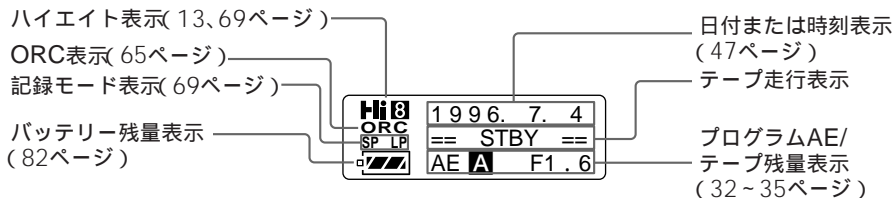
乾電池の使いかたを誤ると、液もれや破裂のおそれがあります。次のことは必ずお守りください。

- ⊕と⊖の向きを正しく入れてください。
- 新しい乾電池と使用した乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池は充電できません。
- 長い間乾電池を使わないときは、取り出しておいてください。

液もれが起こったときは、電池入れについた液をよくふき取ってから新しい乾電池を入れてください。

操作範囲

操作範囲は室内で使用したときの値です。

ファインダーと表示窓の表示

ファインダー

表示窓

リモコンについて

- 本体のリモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光があたらないようにご注意ください。リモコン操作ができないことがあります。
- 付属のリモコンで本機を操作しているときに、他のビデオデッキが誤動作することがあります。その場合、ビデオデッキのリモコンモードスイッチをVTR2以外のモードに切り換えるか、黒い紙でリモコン受光部をふさいでください。

ご注意など

用語解説

五十音順

ア行

アイリス…28、32**ページ**
レンズを通過する光量を調節する絞りのこと。F値の大小によって、ピントの合う範囲が広くなったり狭くなったりする。

カ行

ゲイン…28**ページ**
スチルカメラのフィルム感度に相当するもの。暗い場所で撮るときにゲインを上げると、映像信号が電気的に増幅されて画像が明るくなるが、ノイズも増えて、画面がざらつく。

サ行

シャッタースピード…28**ページ**
スチルカメラの露光時間に相当するもの。通常は1/60秒。スピードが遅いと露光時間が長くなり、暗い場所でも明るい画像になるが、残像が生じやすくなる。また、スピードが速いと露光時間が短くなり、動きの速いものをブレなく撮影できるが、強く明るい光源が必要となり、画像がパラつく。

タ行

タイムコード…RC**タイムコードのこと**
データコード…50**ページ**
テープを録画した日付（年・月・日）と時刻（時・分・秒）をテープに記録する機能。再生時、必要に応じて画面上に表示できる。後から撮影日時の確認をする場合などに使える。

ナ行

ノイズ…17**ページ**
静止画やピクチャーサーチの画像などに出る、横すじ状の線や画像の乱れ。

ハ行

フレーム
テレビ画像は1秒間に30コマで構成されており、1コマを1フレームという。RCタイムコードはこの1フレームに対応した番号。

プログラムAE…32〜35**ページ**
被写体や撮影状況により適した撮影を可能にする機能。本機には、アイリス優先モード、シャッター優先モード、夜景モードがある。

ヘッド…70**ページ**
映像や音声信号をテープに記録したり、テープに記録されている信号を読み取ったりする本機の心臓部分。使っているうちに汚れて、きれいに再生できなくなったときは、クリーニングカセットを使ってきれいにする。

ホワイトバランス調節…40、41**ページ**
色合いの調節機能。これから撮ろうとする光のもとで、白いものは白く、自然な色合いの画像になるように調節すること。

ラ行

リモコンモード…79**ページ**
リモコン信号の種類。ソニー製ビデオ機器間でのリモコンによる誤動作を防ぐために、VTR1・VTR2・VTR3の3種類がある。本機はVTR2。編集時は、他のソニー製ビデオデッキをVTR2以外に切り換えるか、黒い紙でリモコン受光部をふさぐ。

アルファベット順

エーエフエムハイファイ
AFM Hi-Fiステレオ…69ページ
スタンダード方式8ミリビデオでAFM Hi-Fiモノラル方式である標準音声トラックをステレオ化したもの。臨場感にあふれ、立体感のある明瞭度の高いステレオ音声。

アイディワン
ID-1方式…22ページ
ビデオ信号の一部にデジタルのID記号を加算することにより画面の縦横比（16:9、4:3またはレターボックス）の情報を記録するシステムの名称。

オーアールシー
ORC設定…49ページ
テープの種類や状態に合わせて最適な状態で録画できるようにします。

エヌティーエスシー
NTSC方式…74ページ
日本やアメリカなどで使われているカラーテレビ方式。NTSC方式で記録されたテープは、ヨーロッパなどで使われているPAL（パル）やSECAM（セカム）方式のビデオでは再生できない。
海外で本機を使うときは、ご注意ください。

アールシー
RCタイムコード（タイムコード）…56ページ
RCタイムコードとはRewritable Consumerタイムコードの略。1コマ1コマの映像に対応したテープの位置を、時・分・秒・フレーム単位の連続した番号でテープに記録する機能。映像とカウンター数値が一致しているので、正確なカウンターとして使える。
RCタイムコードは、民生用製品独自の8ミリタイムコードで、業務用ビデオの8ミリタイムコードとの互換性はありません。

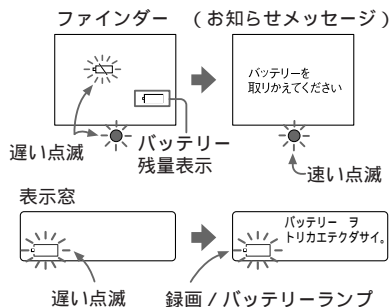
アールエフユー
RFUアダプター…15ページ
ビデオの映像・音声信号をテレビ電波と同じ信号に変換して、テレビの1または2チャンネル（国内仕様の場合）で再生できるようにするもの。

エス
S映像端子…15ページ
映像信号を構成する色信号と輝度（白黒）信号を分離して、より鮮明な映像を再現する端子。
Hi8（ハイエイト）方式に適している。

警告表示とお知らせメッセージ

ファインダーには、次のような表示が出ます。お知らせメッセージはファインダーまたは表示窓に出ます。

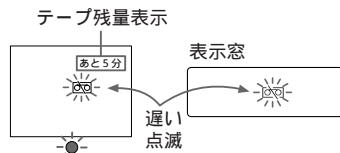
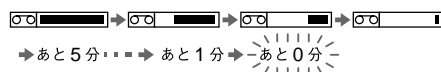
詳しい説明は、（　）内のページにあります。表示は実際には白色です。♪はおしらせブザー音の鳴るものです。

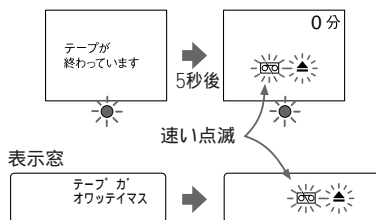
バッテリー残量

バッテリー残量表示について
InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーNP-F530/F730をお使いのときは分表示も出ます。*

(残量表示が▭になるとファインダーや表示窓に▭マークが点滅する。NP-F530/F730ではマークが出ないことがあります。)
＊残量表示は、使用状況や環境により正しく表示されない場合があります。

バッテリーが寿命のとき

このバッテリーは
古くなりました
取りかえてください

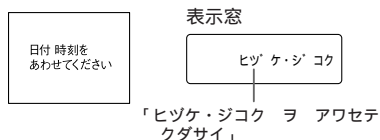
テープ残量

テープ残量表示について

(残量表示が「あと5分」になるとファインダーにマークが点滅する。)

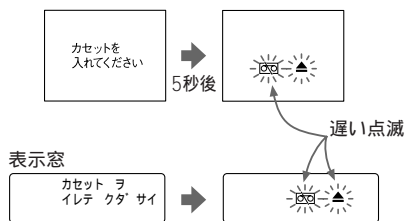
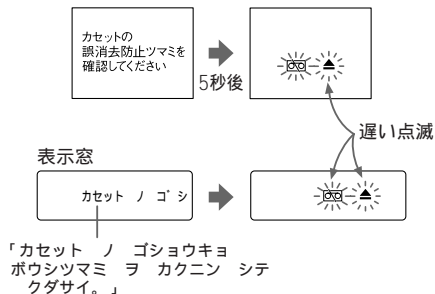
♪テープの終わり

デモンストレーションについて
本機には機能が一覧できるデモンストレーションが内蔵されています。撮影をしようとしたときにデモンストレーションが始まったら、デモンストレーションが出ないようにして撮影を始めてください。

デモンストレーションを見る
1 カセットを取り出して電源スイッチを「ビデオ」にする。
2 スタンバイスイッチを「スタンバイ」にする。
3 ▷再生ボタンを押しながら電源スイッチを「カメラ」にする。デモンストレーションが始まる。

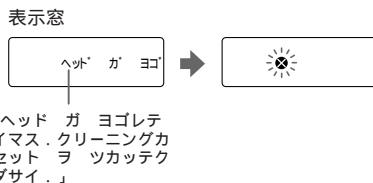
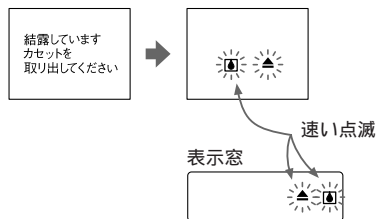
いったんデモンストレーションが始まると、電源を切っても、再び電源スイッチを「カメラ」にすると、約10分後に始まります。カセットを入れると、デモンストレーションは中断されます。

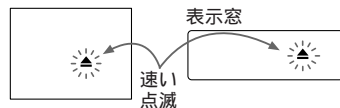
デモンストレーションが出ないようにする
1 電源スイッチを「ビデオ」にする。
2 スタンバイスイッチを「スタンバイ」にする。
3 □停止ボタンを押しながら電源スイッチを「カメラ」にする。

日時・時刻の未設定(51ページ)

ボタン型リチウム電池の消耗／ボタン型リチウム電池が入っていない(66ページ)

カセットが入っていない

♪カセット誤消去防止(69ページ)

カセットの誤消去防止ツマミを確認する。

ヘッド汚れ(70ページ)

クリーニングカセットできれいにする。

♪結露(70ページ)

テープを取り出し、カセット入れを開けたまま約1時間放置する。

♪その他の異常

一度電源を切り、バッテリーを取りはずす。再びバッテリーを取り付け、電源を入れ、カセット取り出しスイッチの青いボタンを押しながら矢印の方向へずらす。。それでも表示が消えないときは、お買い上げ店か、ソニーのサービス窓口にご相談ください。

索引

保証期間中の故障に関するお問い合わせは
CCD-TR3300
テクニカルインフォメーションセンターへ
0120-28-8089（フリーダイヤル）

ご相談になるときは次のことをお知らせください
●型名：CCD-TR3300
●故障の状態：できるだけ詳しく
●お買い上げ年月日

ソニー株式会社　〒141 東京都品川区北品川6-7-35

お問い合わせはお客様ご相談センターへ
●東京(03)5448-3311 ●名古屋(052)232-2611 ●大阪(06)539-5111

Printed in Japan